

琉球大学学術リポジトリ

ヤップ島寫真集

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄, 南洋, ヤップ, 写真集 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38134

矢内原忠雄文庫

史料名	ヤップ島寫真集
封筒番号	219
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 11 日
撮 影 者	富士写真フイルム 株式会社
備 考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号：219

史料名	ヤップ島写真集
資料形態	ひも綴じ
枚数	52
页数	104
縦 (cm)	19.5
横 (cm)	27
厚さ (cm)	
書誌的事項	南洋 天野商店発行 発行年不明 折り込み頁あり 今泉分類記号：



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 11 / 14



帳眞寫島プツヤ

天野商店發兌

0000954010939

274.3
AM

全一ロ口部にて

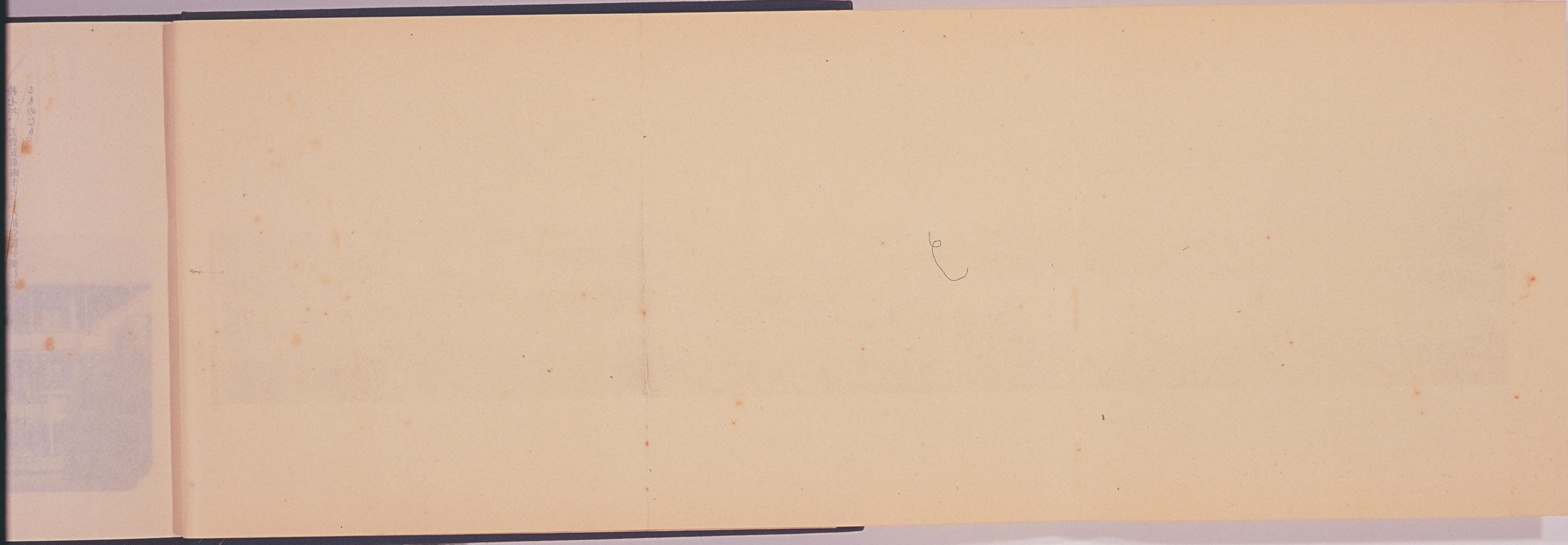


1/2

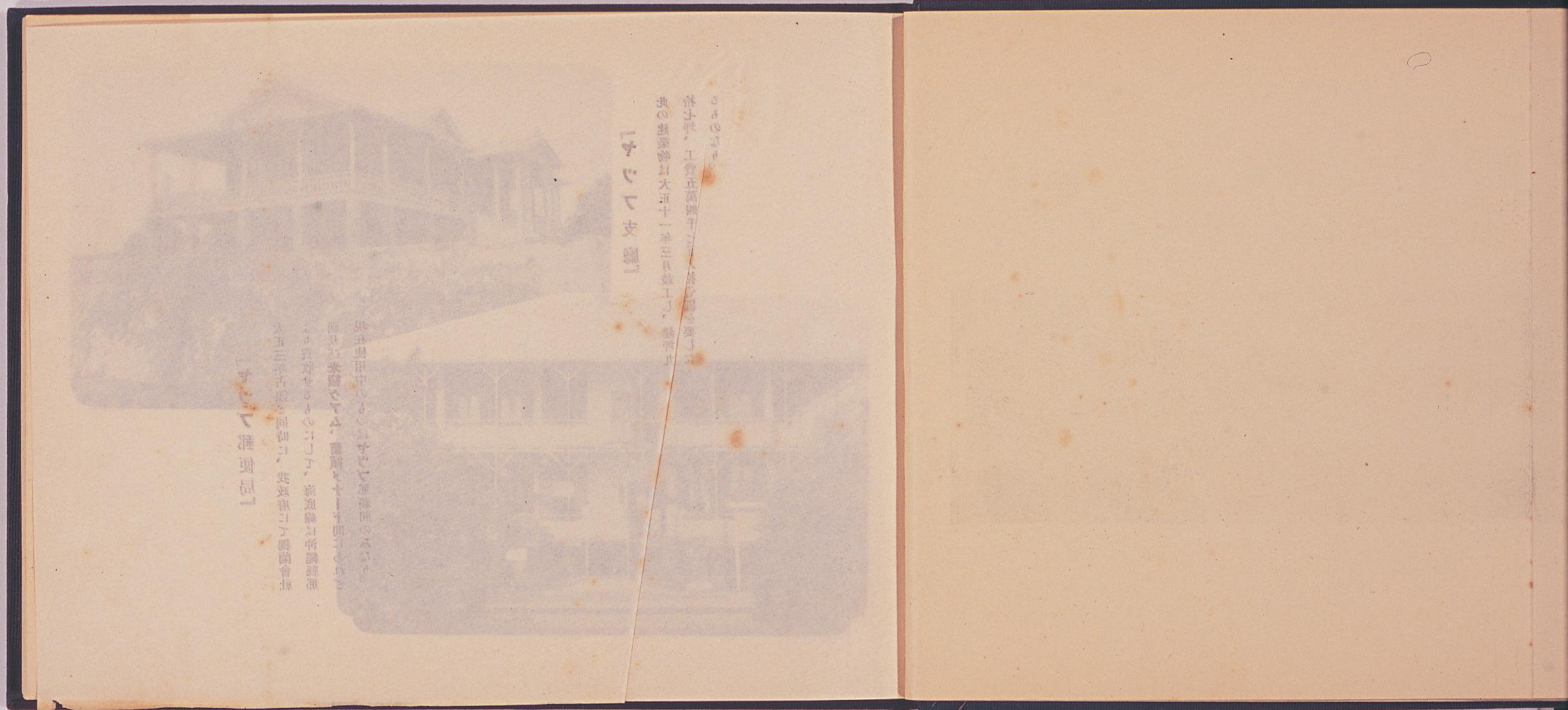


景全一ニロコ島プツヤ

2/2



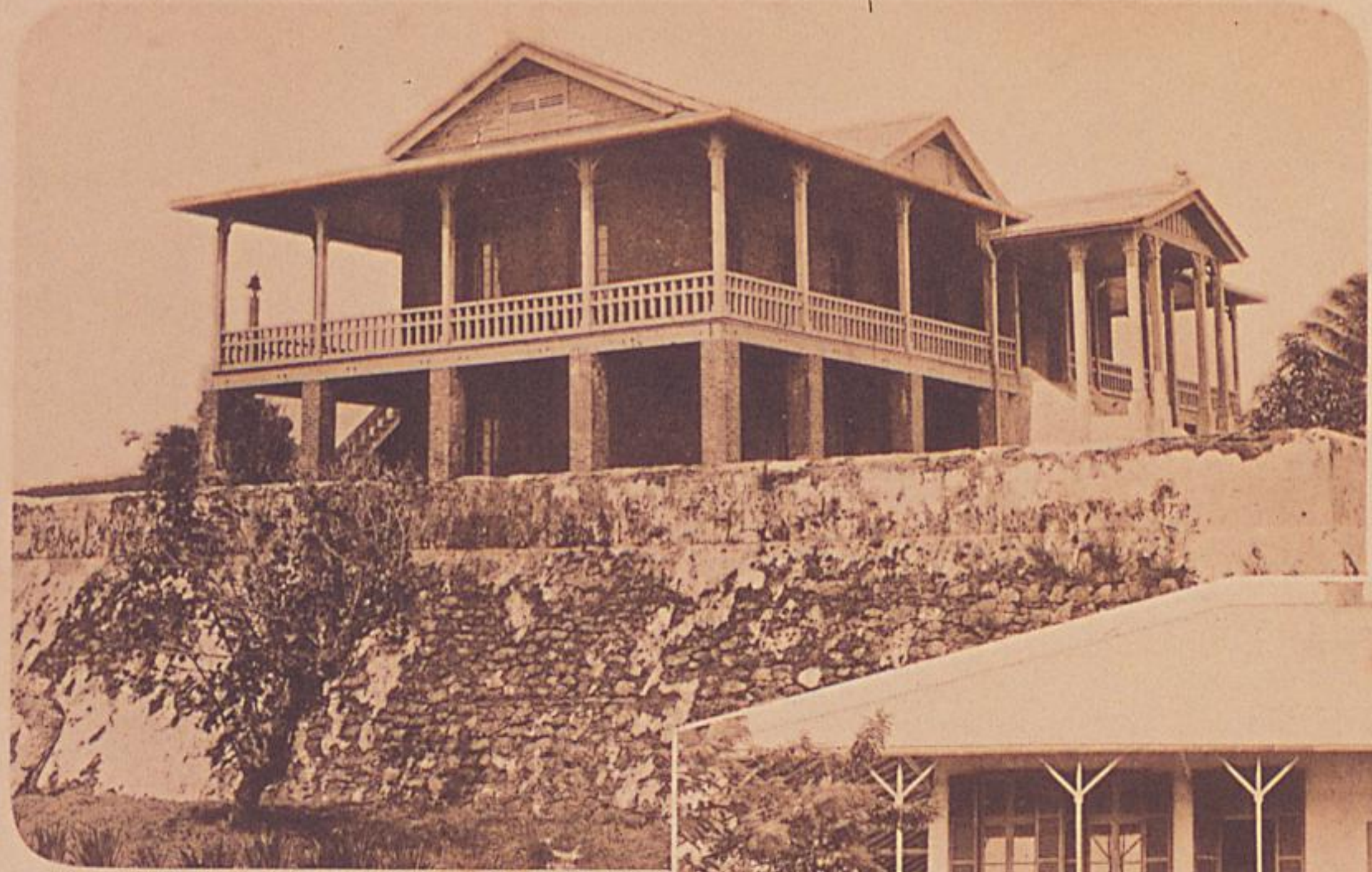
1/2



明治二十一年三月三日
「支那」支那」

支那の歴史
支那の地理
支那の政治
支那の経済
支那の文化
支那の宗教
支那の教育
支那の法律
支那の外交
支那の国防
支那の交通
支那の産業
支那の科学
支那の芸術
支那の文学
支那の思想
支那の哲学
支那の宗教
支那の教育
支那の法律
支那の外交
支那の国防
支那の交通
支那の産業
支那の科学
支那の芸術
支那の文学
支那の思想
支那の哲学

2/2

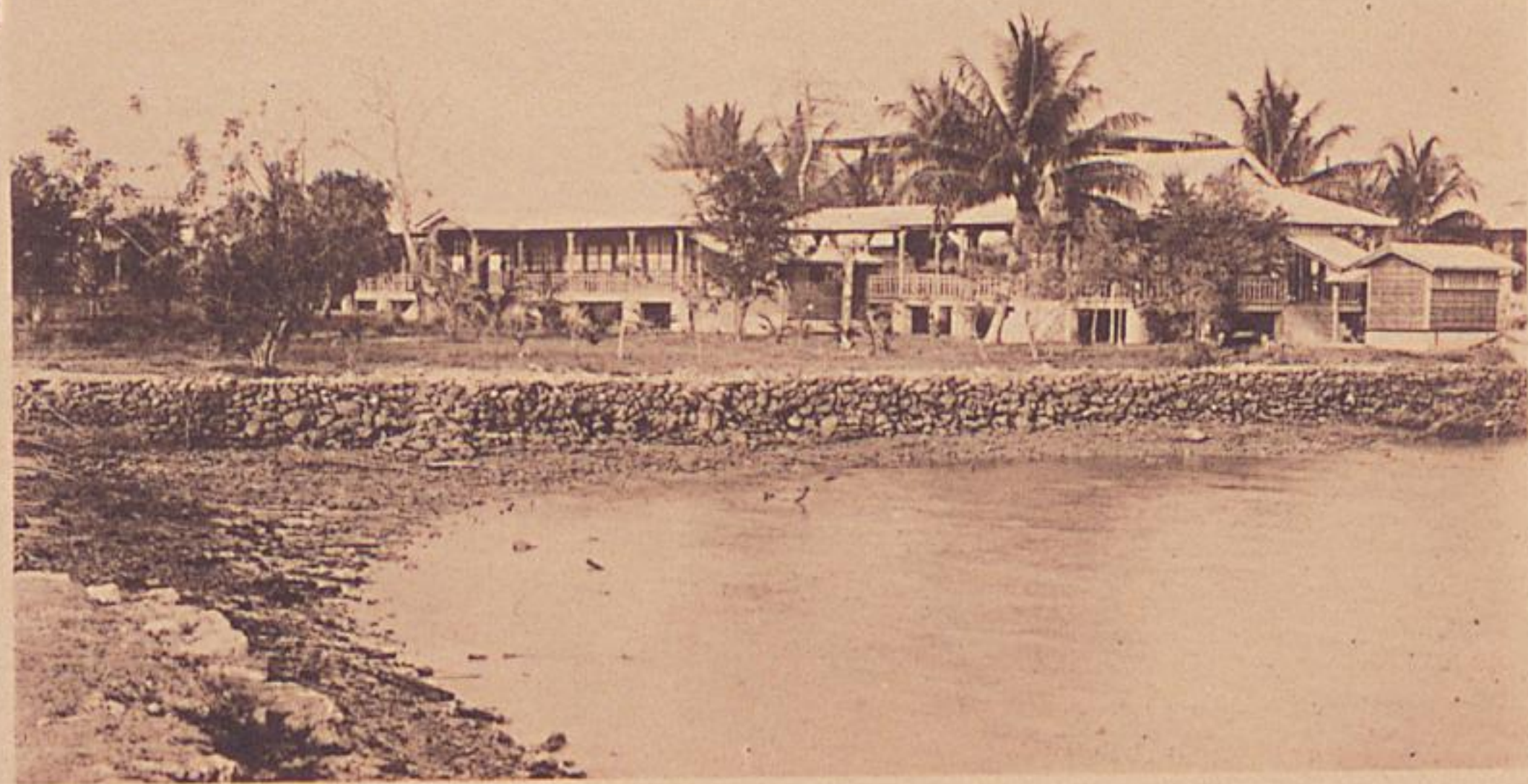
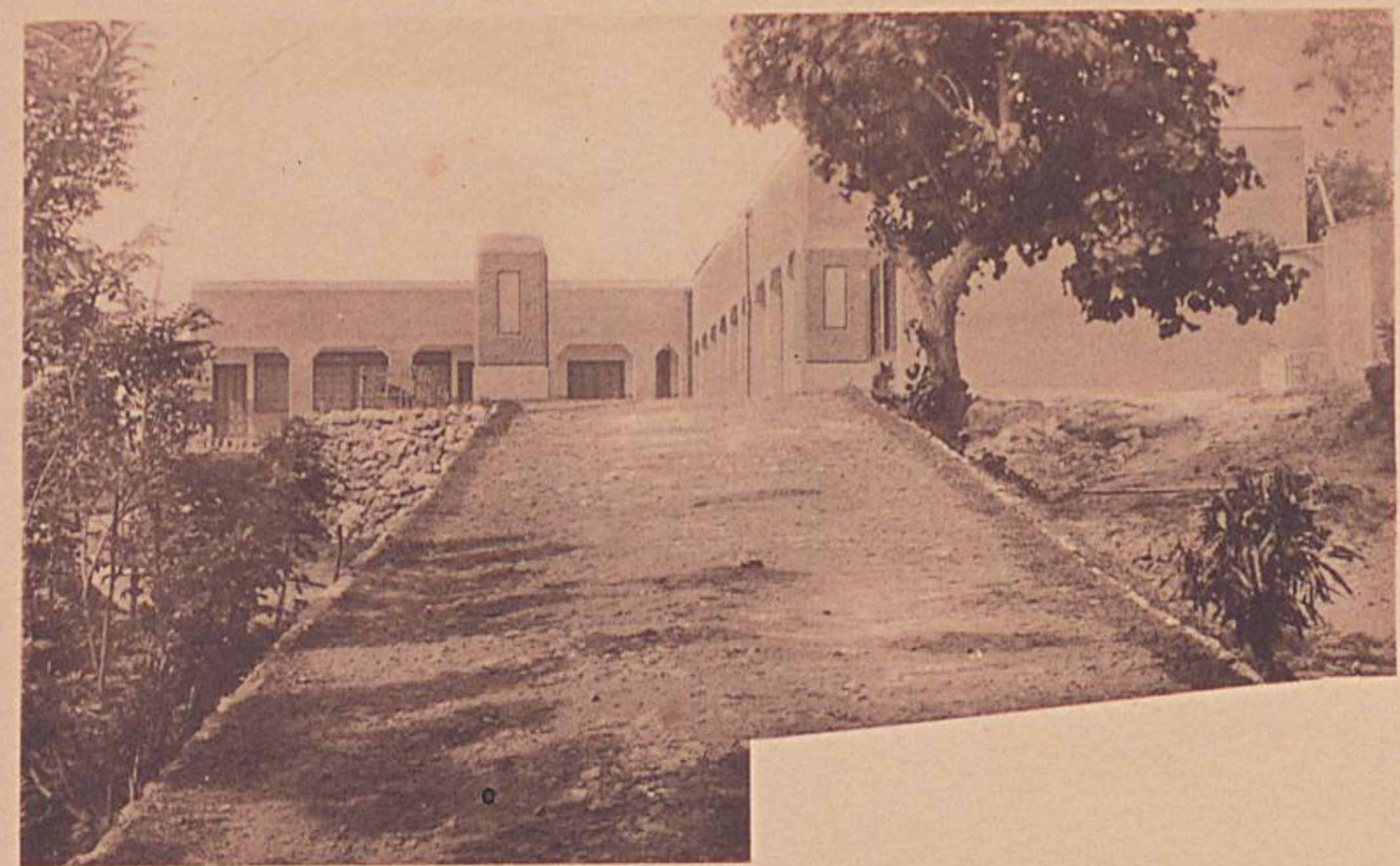


「ヤツブ支廳」

此の建築物は大正十一年三月竣工し、建坪九拾七坪、工費五萬四千七百八拾壹圓を要するものなり。

「ヤツブ郵便局」

大正三年占領と同時に、我政府にて獨逸會社より買収せるものにして、海底線は沖繩縣那覇及び米嶺グアム、蘭嶼メナード間にあれど現在使用中のものはヤツブ那覇間ののみなり。



「ヤツブ公學校」

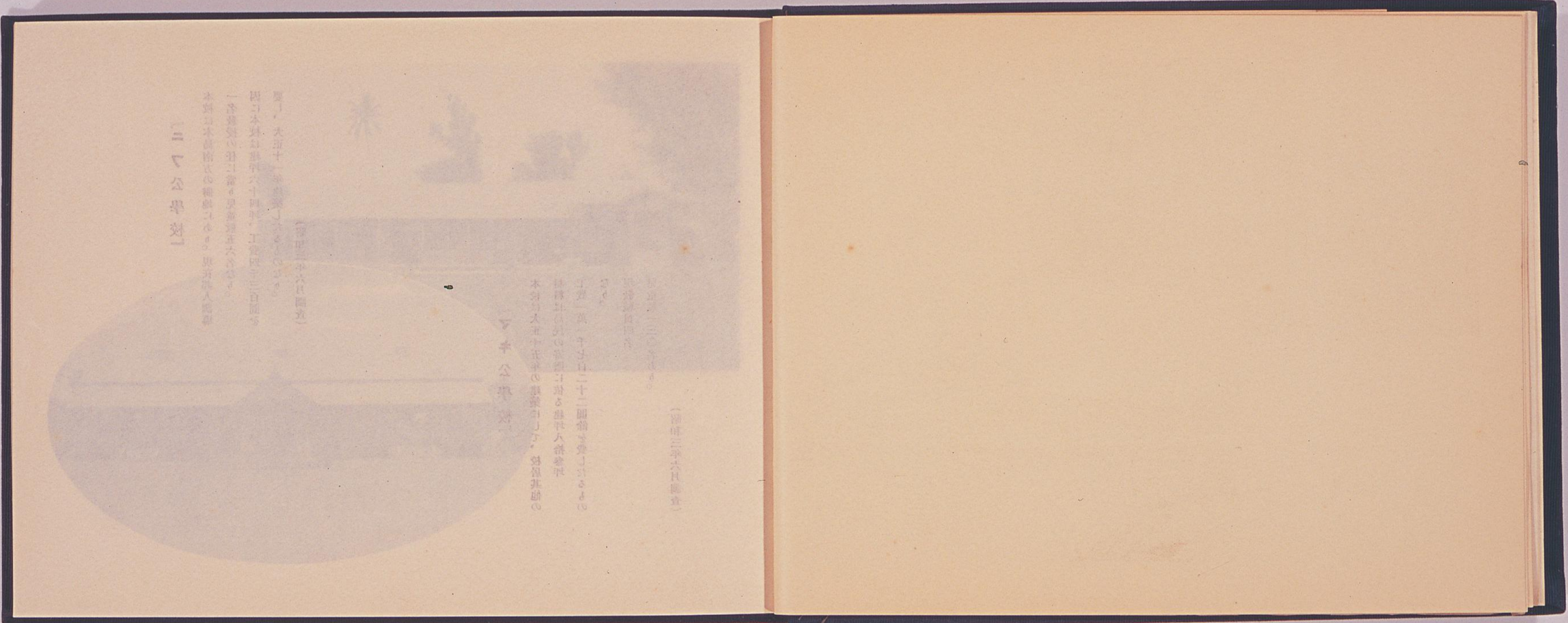
本校舎は全部コンクリート建にて、其の建坪
一四坪七分、工費三萬九千八百圓を要した
るものにして、大正十四年十二月の大暴風に
遇ひ倒壊せし後に建築せしものなり。現在教
職員六名、收容児童一九六名なり。

(昭和三年六月調)

「ヤツブ醫院」

當院には醫官一名、醫員一名、藥劑師一名、
助手一名、産婆一名、看護一名の配員あり。
患者は一年延人員、邦人二、一五九人、外
人三四人、島民六、七四人にして病類中消
化疾患、呼吸器患者も多し、脚氣病、傳染性
疾患殆どなし。

(昭和元年末調)



明治三十二年六月
三ノ公學対

明治三十二年六月
三ノ公學対



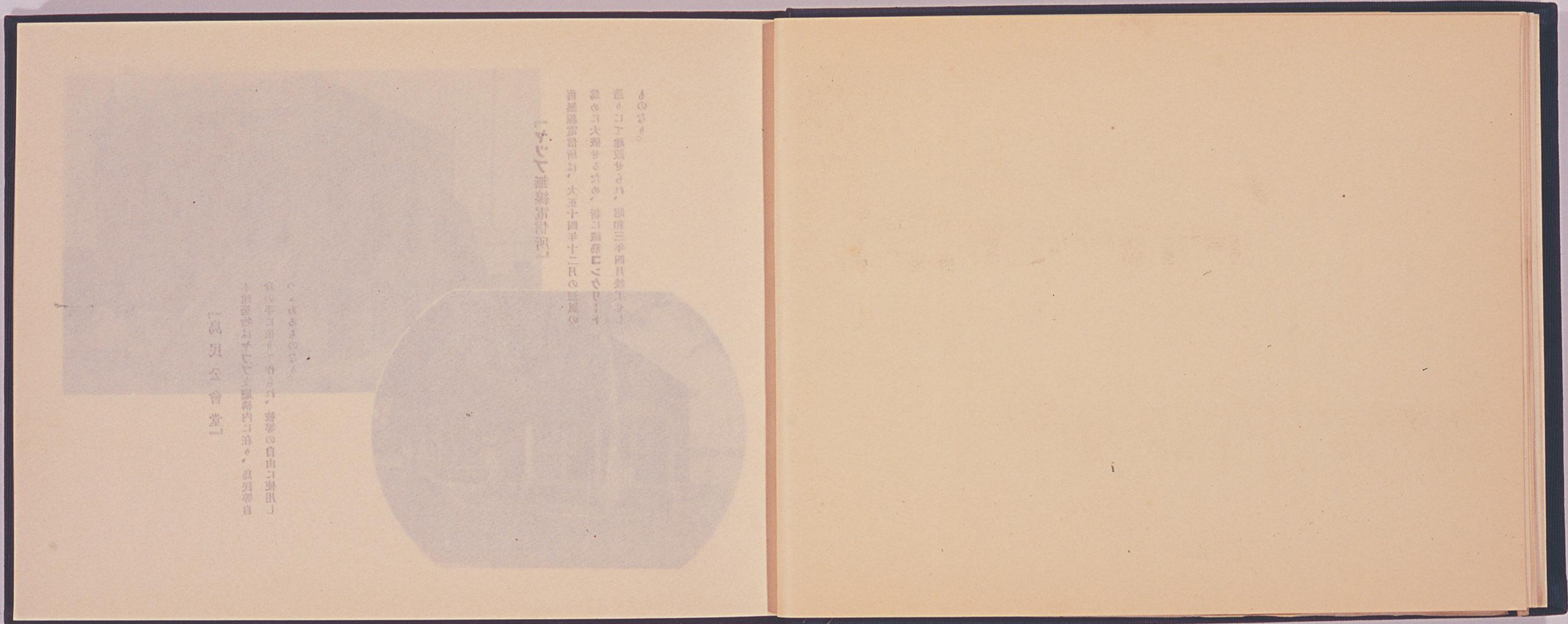
「ミフ公學校」

本校は本島南方の僻地にあり。現在邦人調導一名教授の任に當り児童數五六名なり。因に本校は建坪六十四坪、工費四千三百圓を要し、大正十一年建築したるものなり。
(昭和三年六月調査)

「マキ公學校」

本校は大正十五年の建築にして、校居其他の材料は島民の寄贈に依る建坪八拾叁坪工費一萬一千七百二十二圓餘を費したるものなり。
現教職員四名
児童數一三〇名あり。
(昭和三年六月調査)





明治二十二年四月廿五日
東京三平園日新堂
發行
大正十一年十二月
發行
大正十一年十二月
發行

明治二十二年四月廿五日
東京三平園日新堂
發行
大正十一年十二月
發行
大正十一年十二月
發行



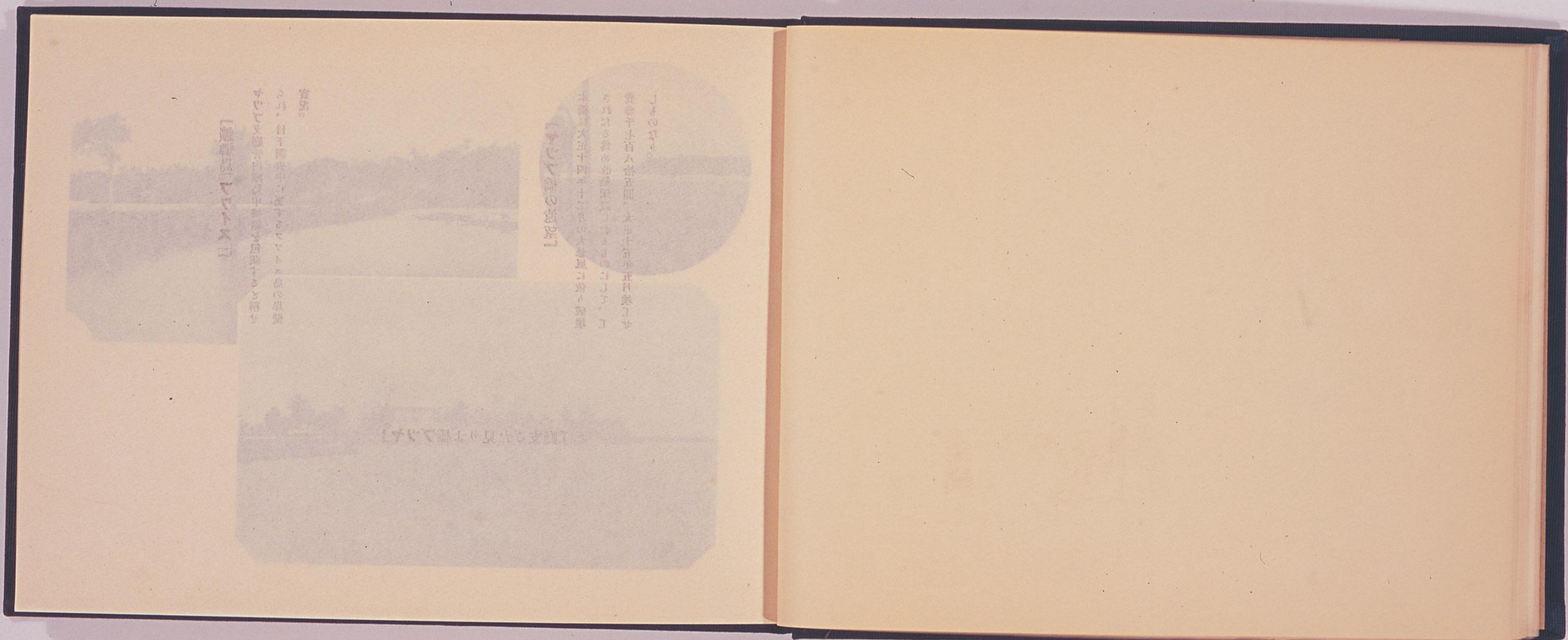


「ヤップ無線電信所」

舊無線電信所は、大正十四年十二月の烈風の爲めに大破せるため、新に鐵筋コンクリート造りにて建設せられ、昭和三年四月竣工せしものなり。

「島民公會堂」

本建築物はヤップ支廳構内に在り、島民等自身の手によりて作られ、彼等の自由に使用しつゝあるものなり。



1804

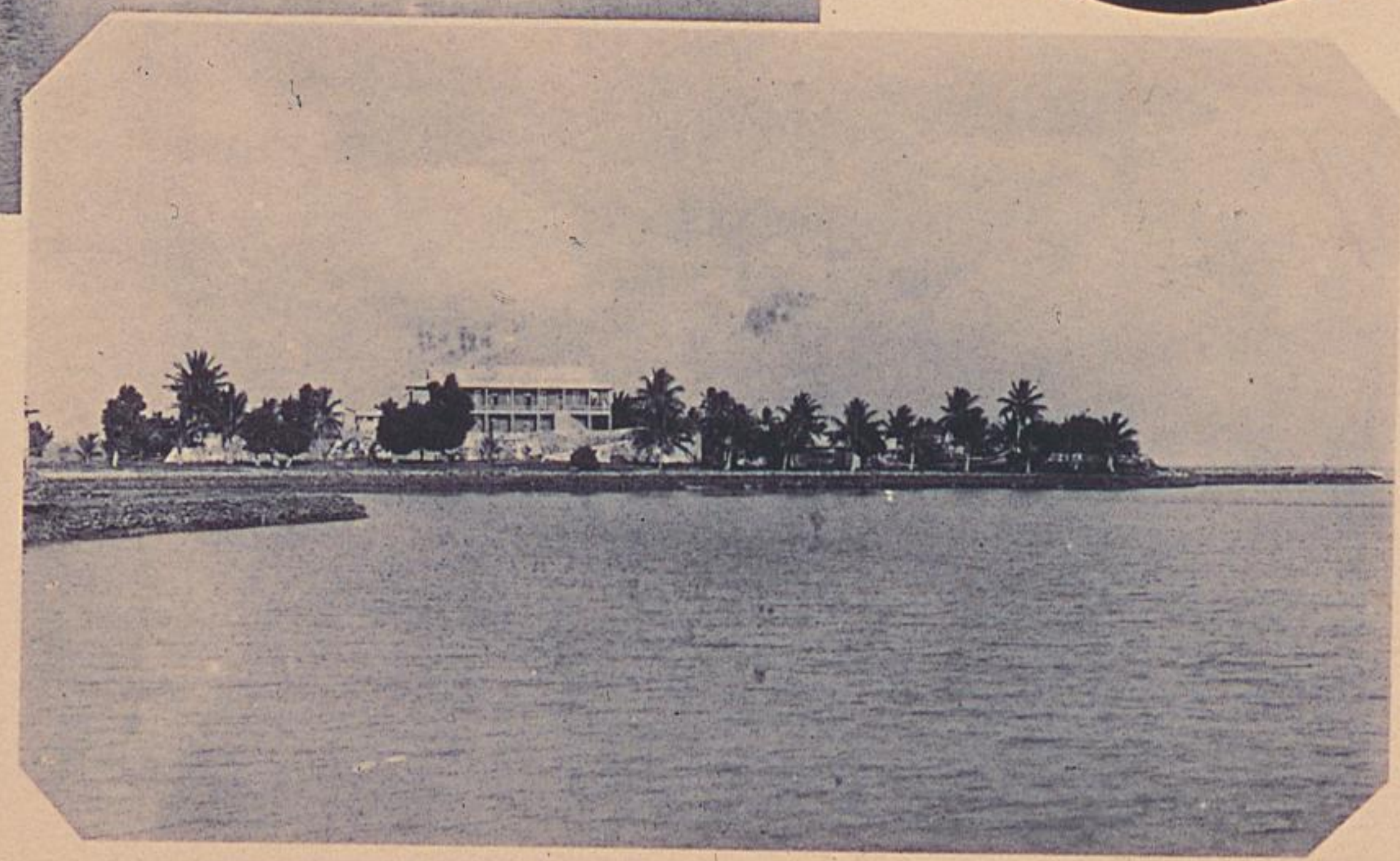
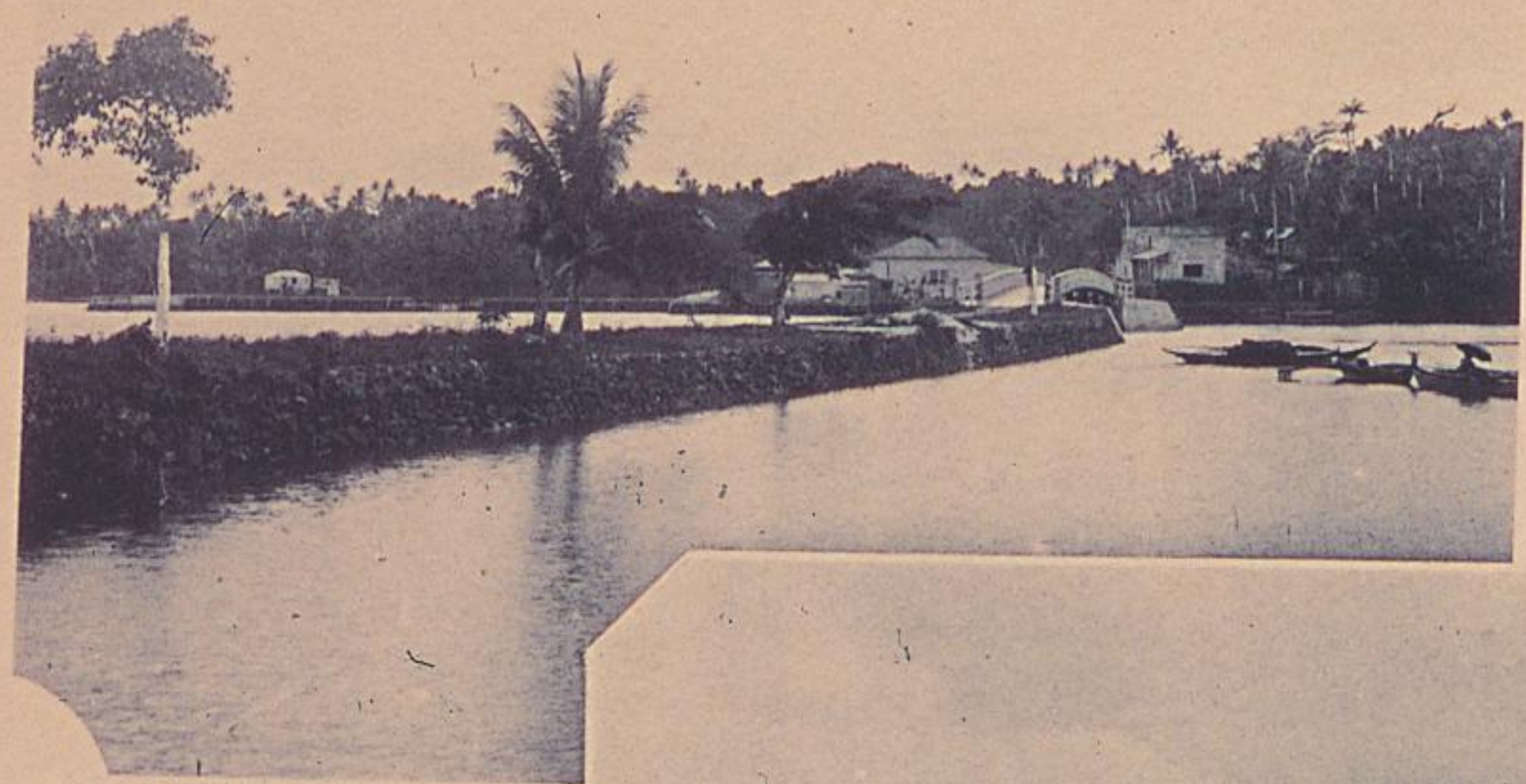
豊後守 八百八十八年 大正十五年正月 豊後守
の 御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付
御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付
御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付

1804

1804

豊後守 八百八十八年 大正十五年正月 豊後守
の 御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付
御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付
御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付 御 下 付

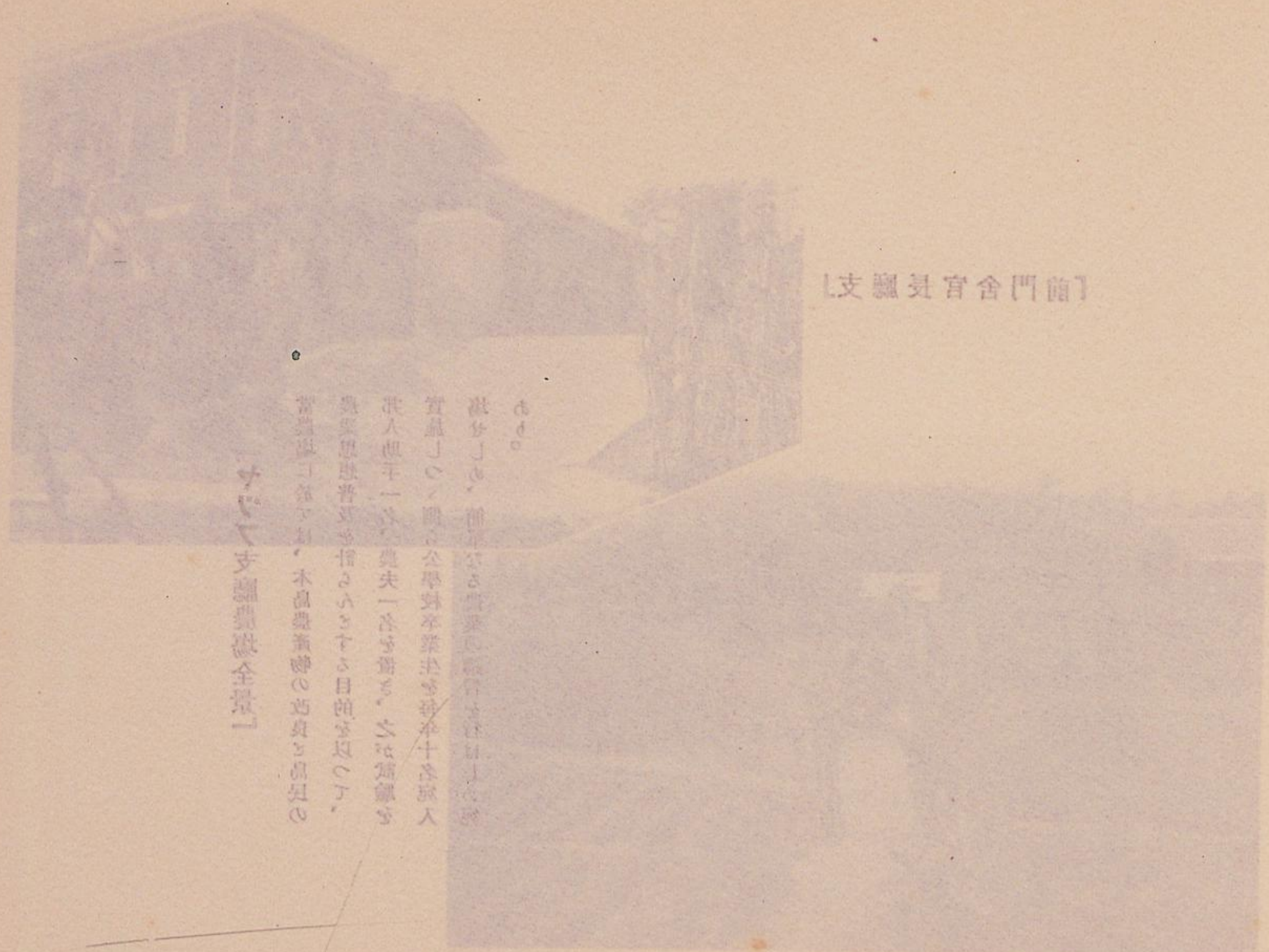
1804



「鑛燐島」フワイス」
ヤツブ支廳管内離島中鑛燐を包蔵するを稱せられ、目下調査中に屬するフワイス島の岸壁實況。

「ヤツブ橋の遠望」
本橋は大正十四年十二月の大暴風に依り破壊されたる爲め改築架設したるものにして、工費參千七百八拾五圓、大正十五年五月竣工せしものなり。

「廳支るた見りよ橋アツヤ」



【支那其官舎門前】

此の建物は、支那の官舎の門前を写したものである。建物の構造は、中国の伝統的な建築様式を反映しており、屋根は瓦葺きで、柱は木製である。背景には山々が見え、全体的に静謐な雰囲気を醸し出している。

すべて支那の風景

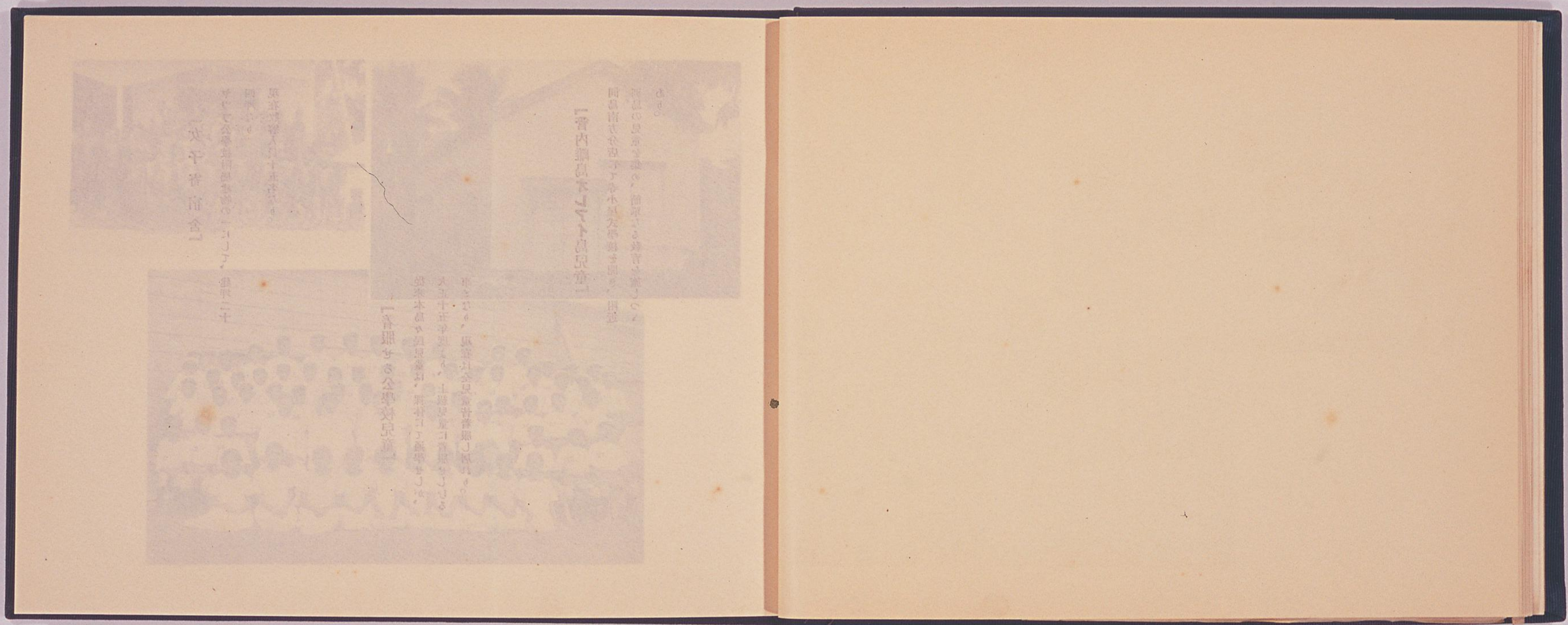




「支廳長官舎前門」

「ヤツブ支廳農場全景」

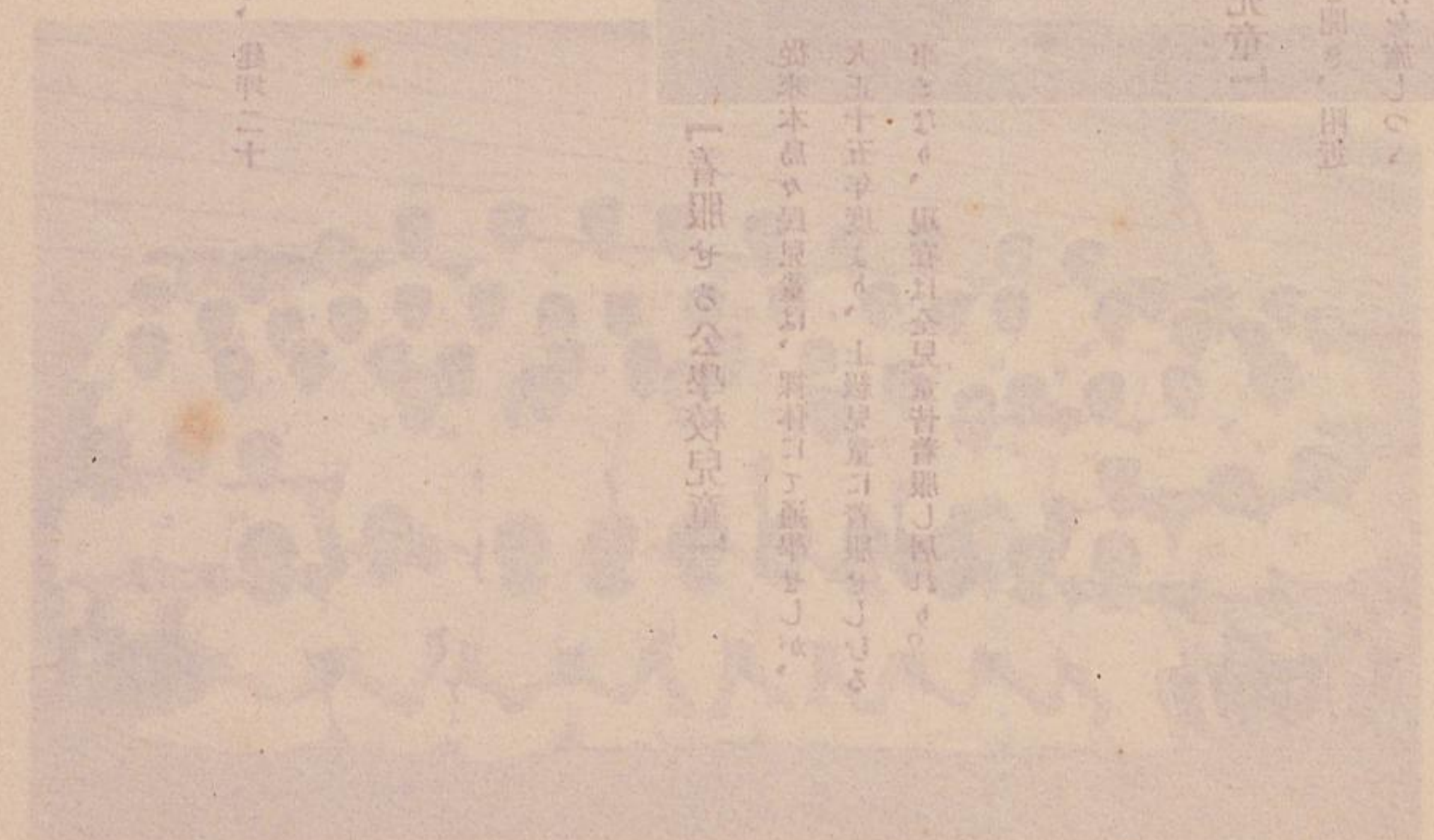
當農場に於ては、本島農産物の改良と島民の農業思想普及を計らんとする目的を以つて、邦人助手一名、農夫一名を置き、之が試験を實施しつゝ、側ら公學校卒業生を毎年十名宛入場せしめ、簡單なる農業の講習を行はしめ宛あり。



此の書は、
同書南に在りて、
「管内御領本」にて、
同書

同書南に在りて、
「管内御領本」にて、
同書

同書南に在りて、
「管内御領本」にて、
同書



「女子寄宿舎」

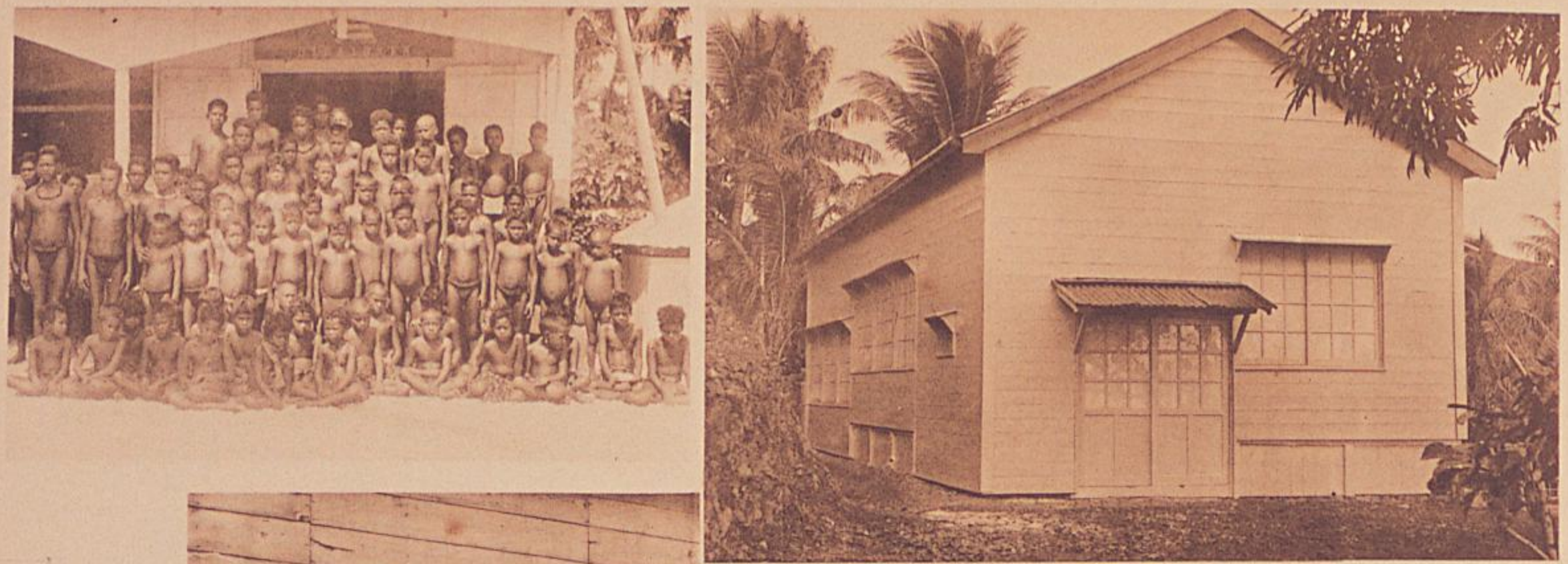
ヤツブ公學校附屬建物の一にして、建坪二十四坪なり。
現在收容人員十五名なり。

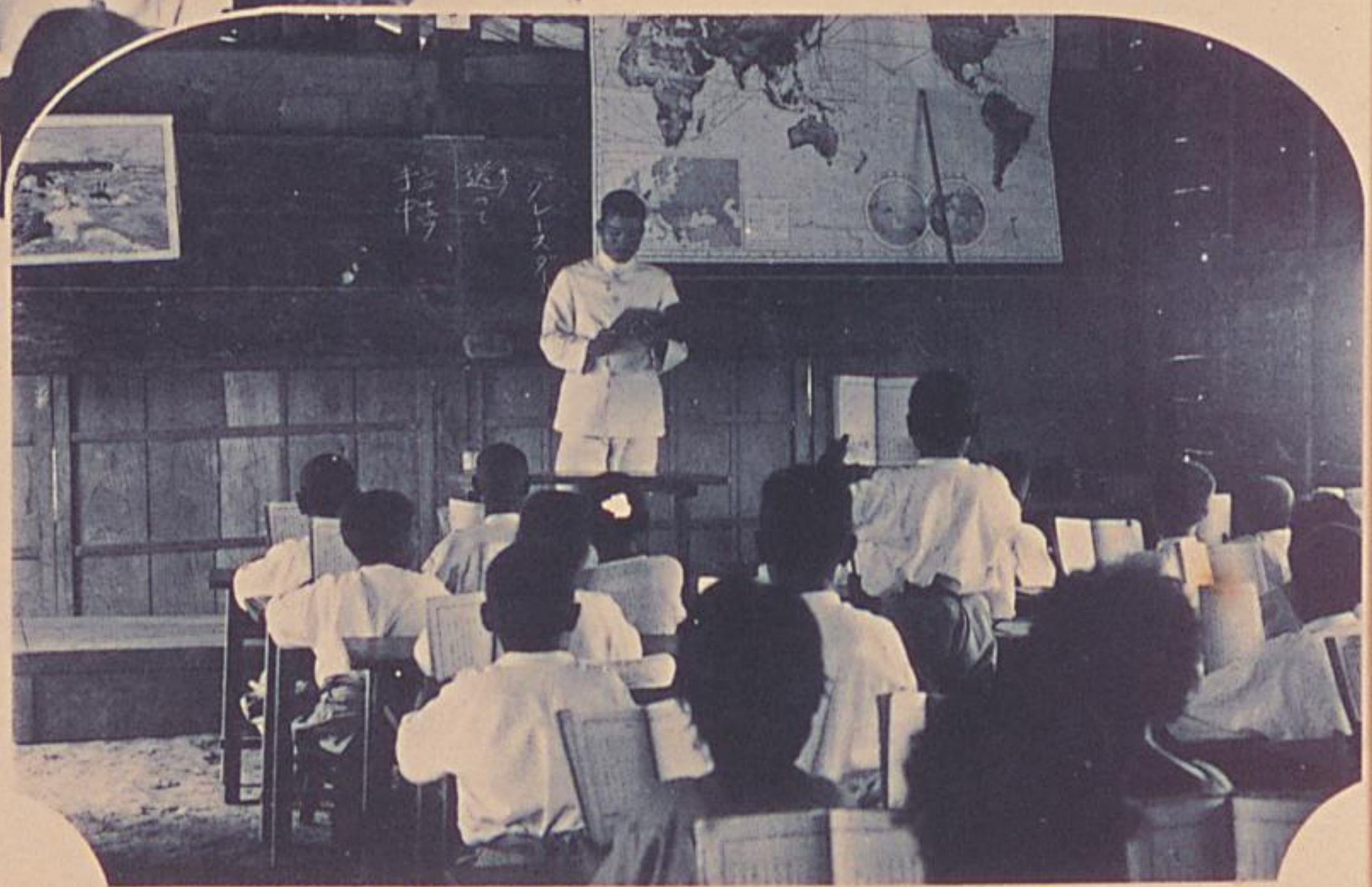
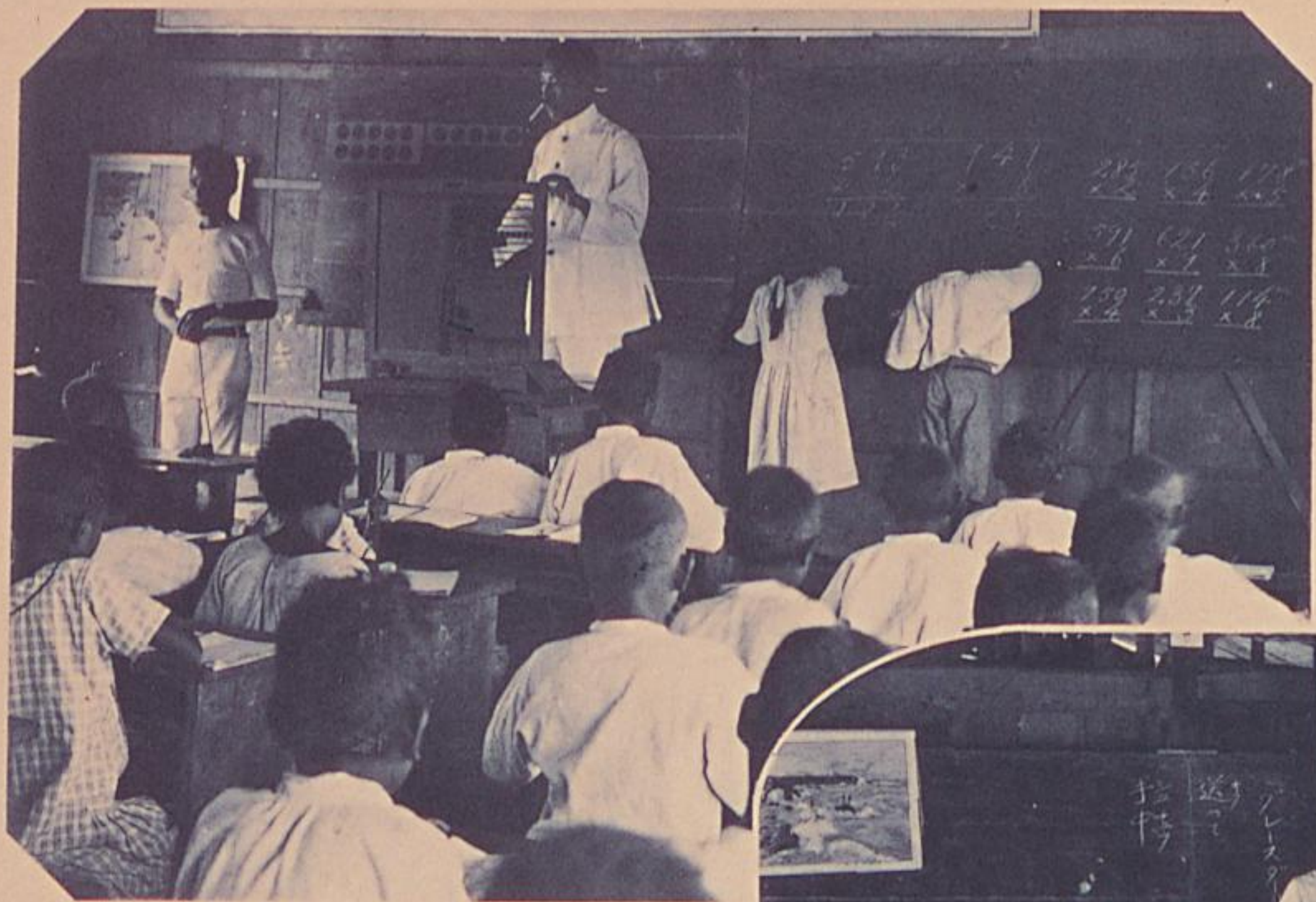
「着服せる公學校兒童」

從來本島々民兒童は、裸体にて通學せしが、大正十五年度より、上級兒童に着服せしむる事となり、現在は全兒童皆着服し居れり。

「管内離島オレイ島兒童」

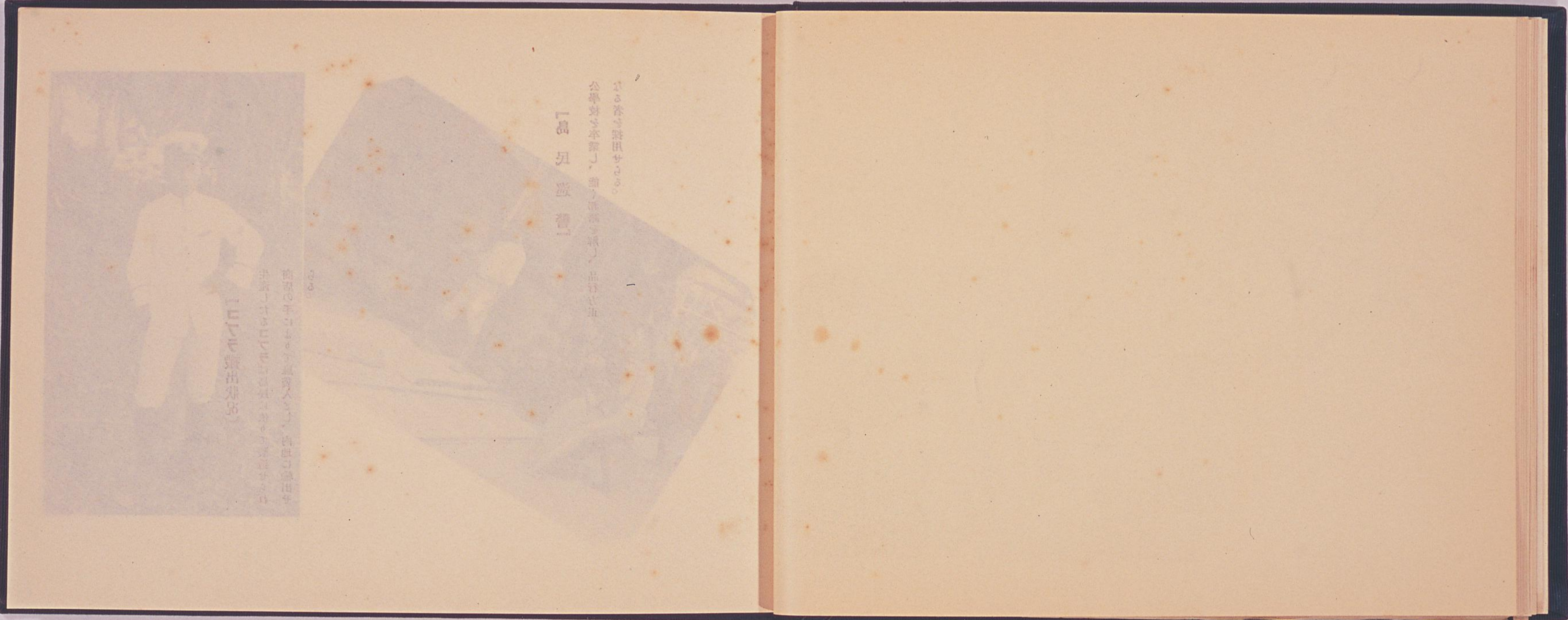
同島南方分店にて寺小屋式學校を開き、附近別島の兒童を集め、簡單なる教育を施しつゝあり。



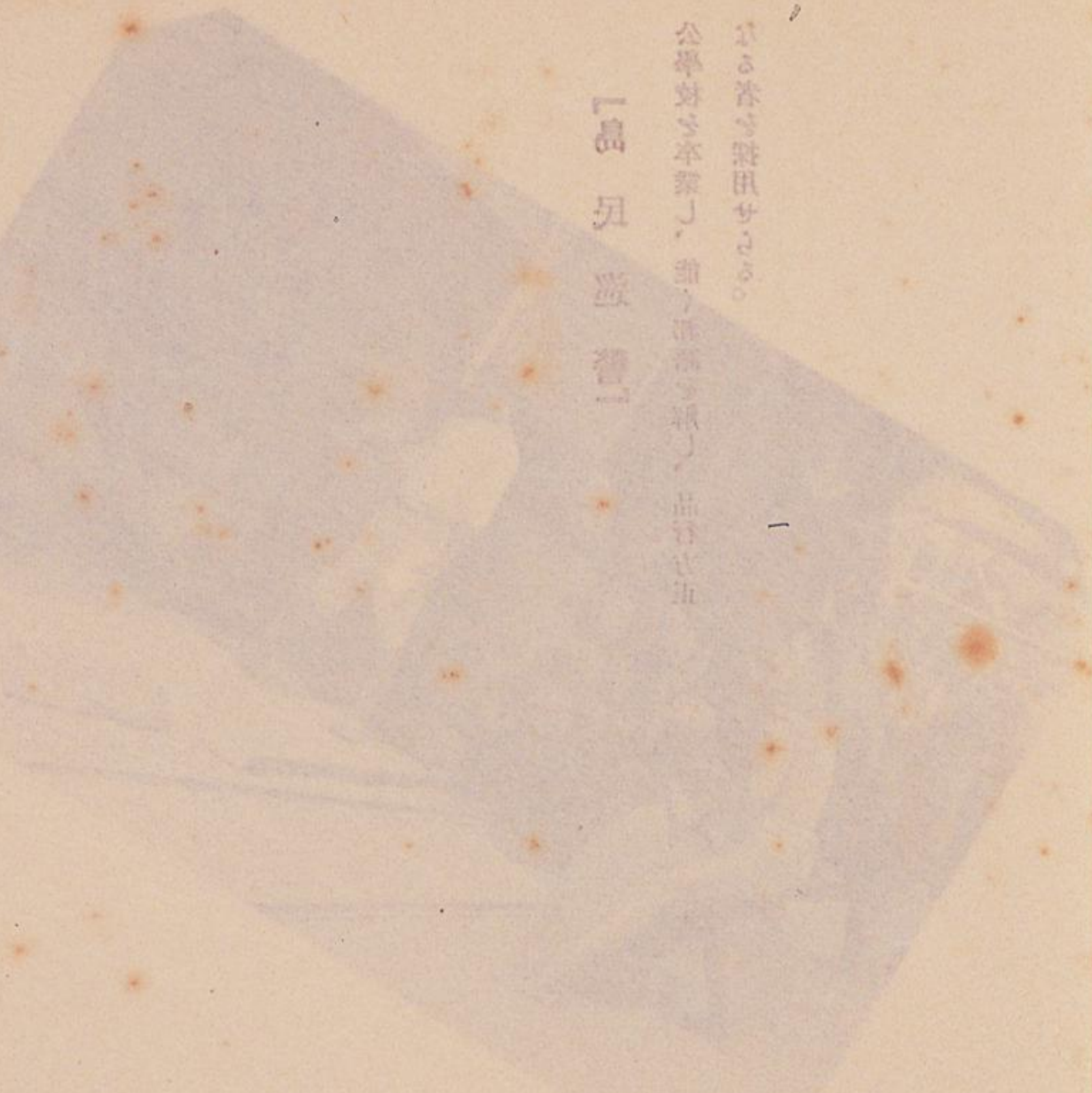


「ヤツフ公學校兒童
算術教授の實況」

「ヤツフ公學校兒童
國語教授の實況」

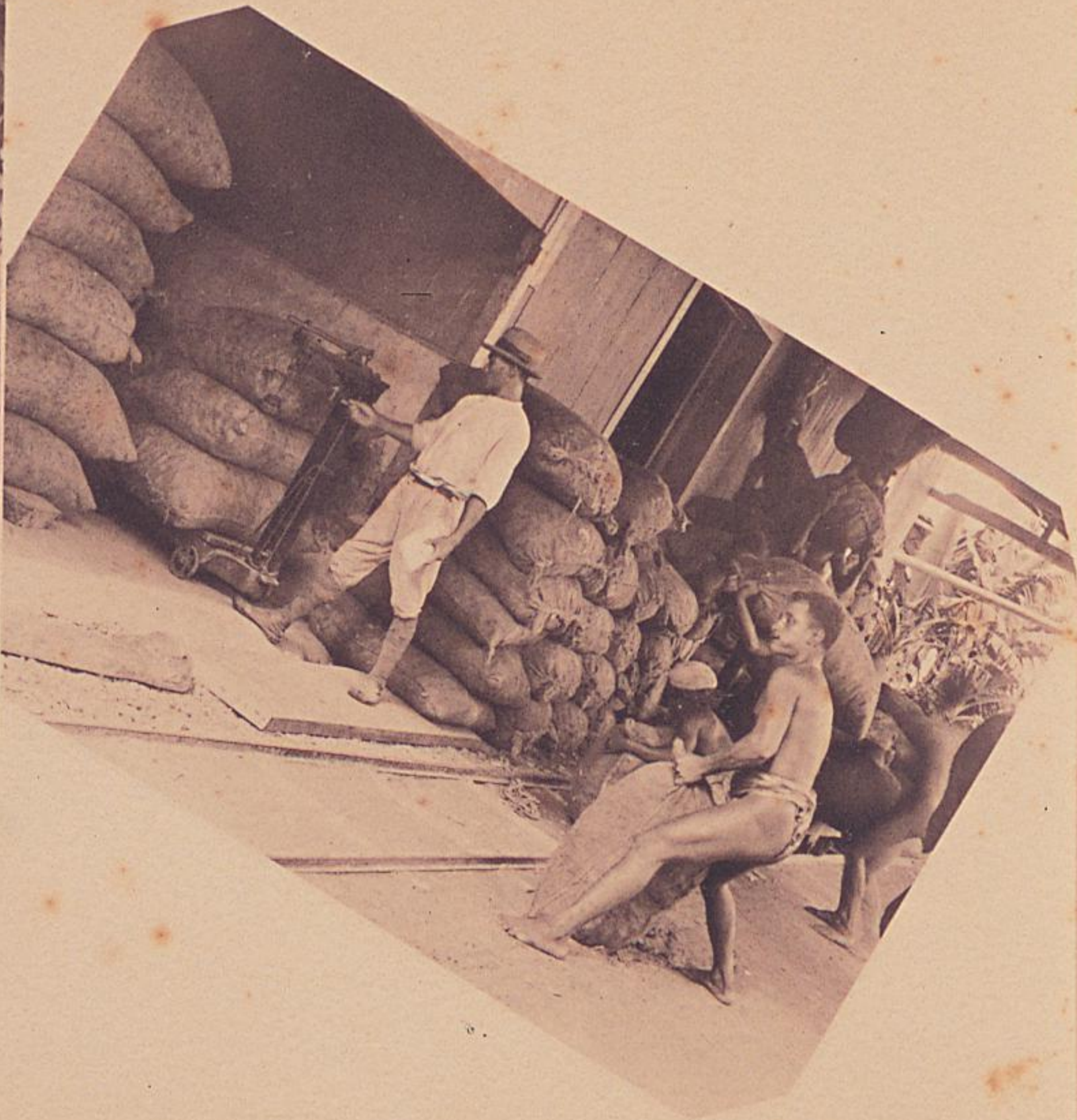


この書は、
公衆衛生の
「高 須 巻 巻」



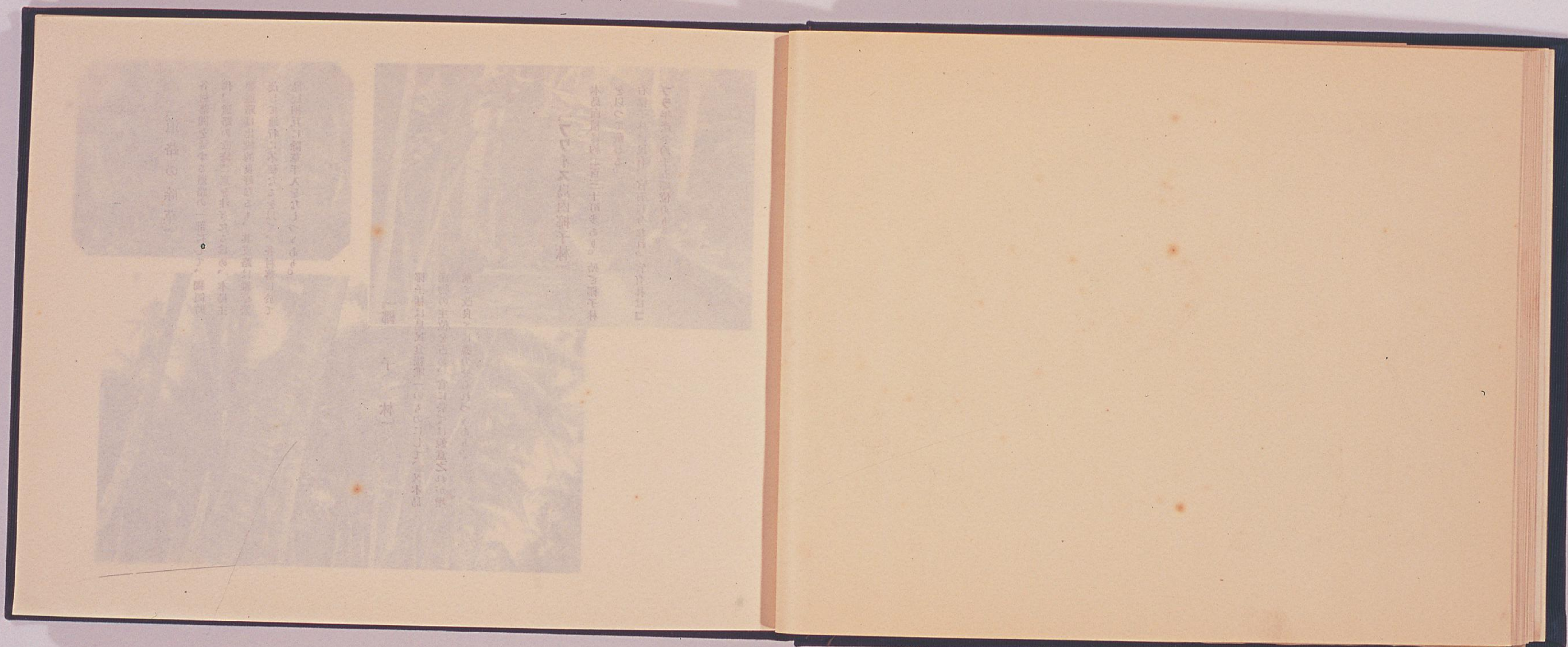
「高 須 巻 巻」
の
出 版 者
は
高 須 巻 巻
の
出 版 者
は
高 須 巻 巻
の
出 版 者
は





「島民巡警」
公學校を卒業し、能く邦語を解し、品行方正なる者を採用せらる。

「コブラ搬出状況」
生産したるコブラは島民に依りて製造せられ商店の手によりて麻袋入とし、内地に輸出せらる。



Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns and is mostly illegible due to fading.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns and is mostly illegible due to fading.



『道路の除草』

各村落間を通ずる道路の一部にして、獨領時代、道路の改修に意を注ぎたる爲め、本島主要道路は比較的良好なるも、其支路は雜草繁茂して通行に不便なるを以て、各村落に於て島民相互に除草手入をなしつゝあり。

『椰子林』

椰子林は島民食糧唯一のものにして、又本島産物の主位を占め、官に於ては鋭意之れが増殖と改良とに盡力せられつゝあり。

『フワイヌ島内椰子林』

本島面積は約二百三十町歩あり。殆ど椰子林を以て蔽わる。
右椰子林は民有、官有に分たれ、官有林はコブラ年産平均十五噸位あり。



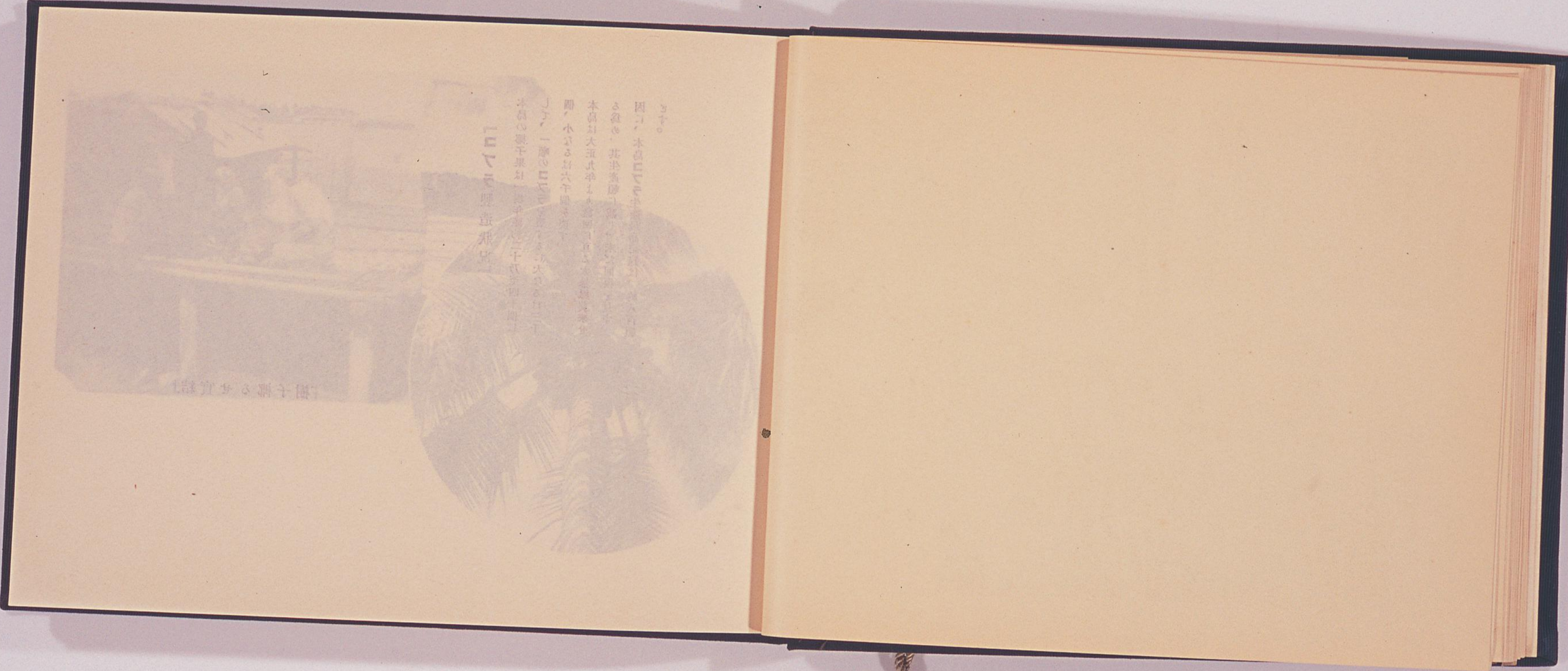
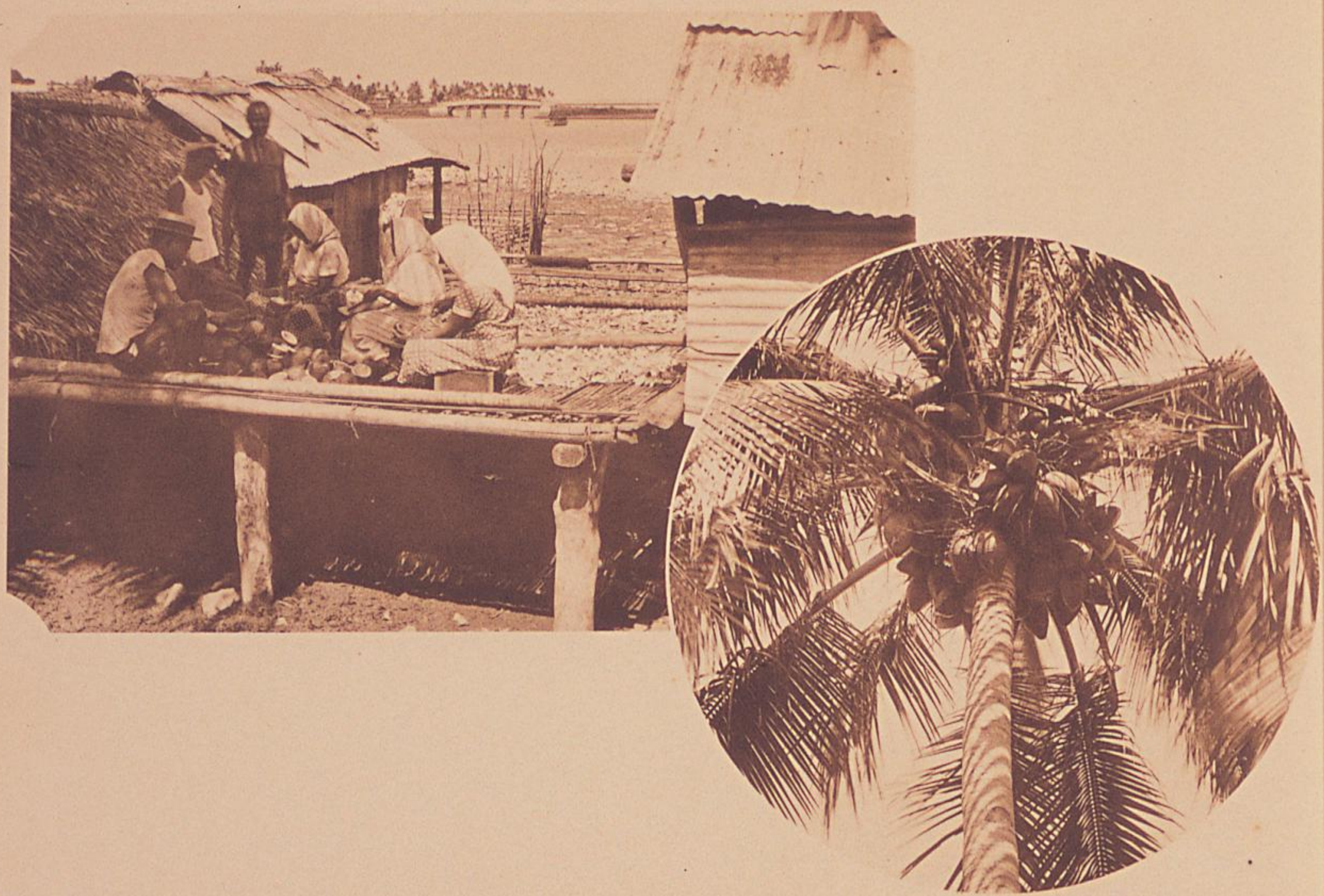


Figure 1. A traditional Japanese building, possibly a shrine or temple, with a thatched roof and a circular pattern below it. The text is in vertical Japanese characters.

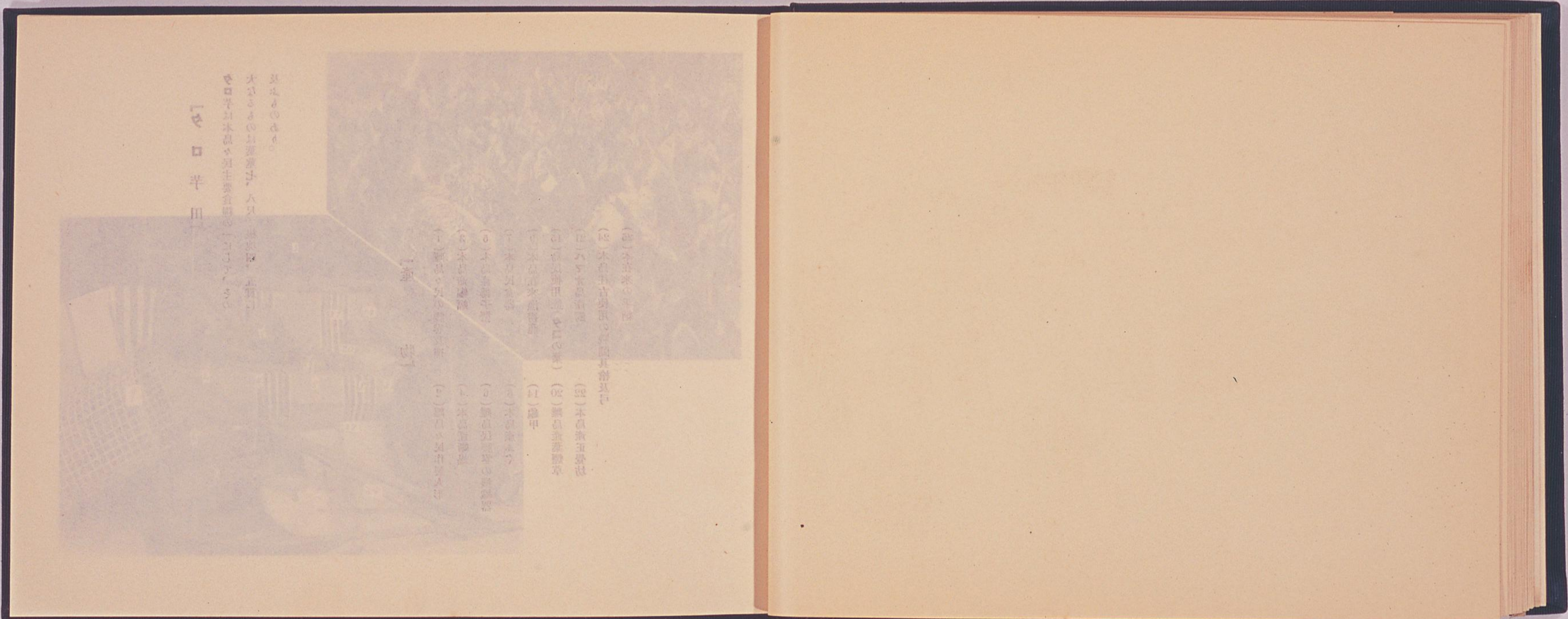
Figure 1. A traditional Japanese building, possibly a shrine or temple, with a thatched roof and a circular pattern below it.



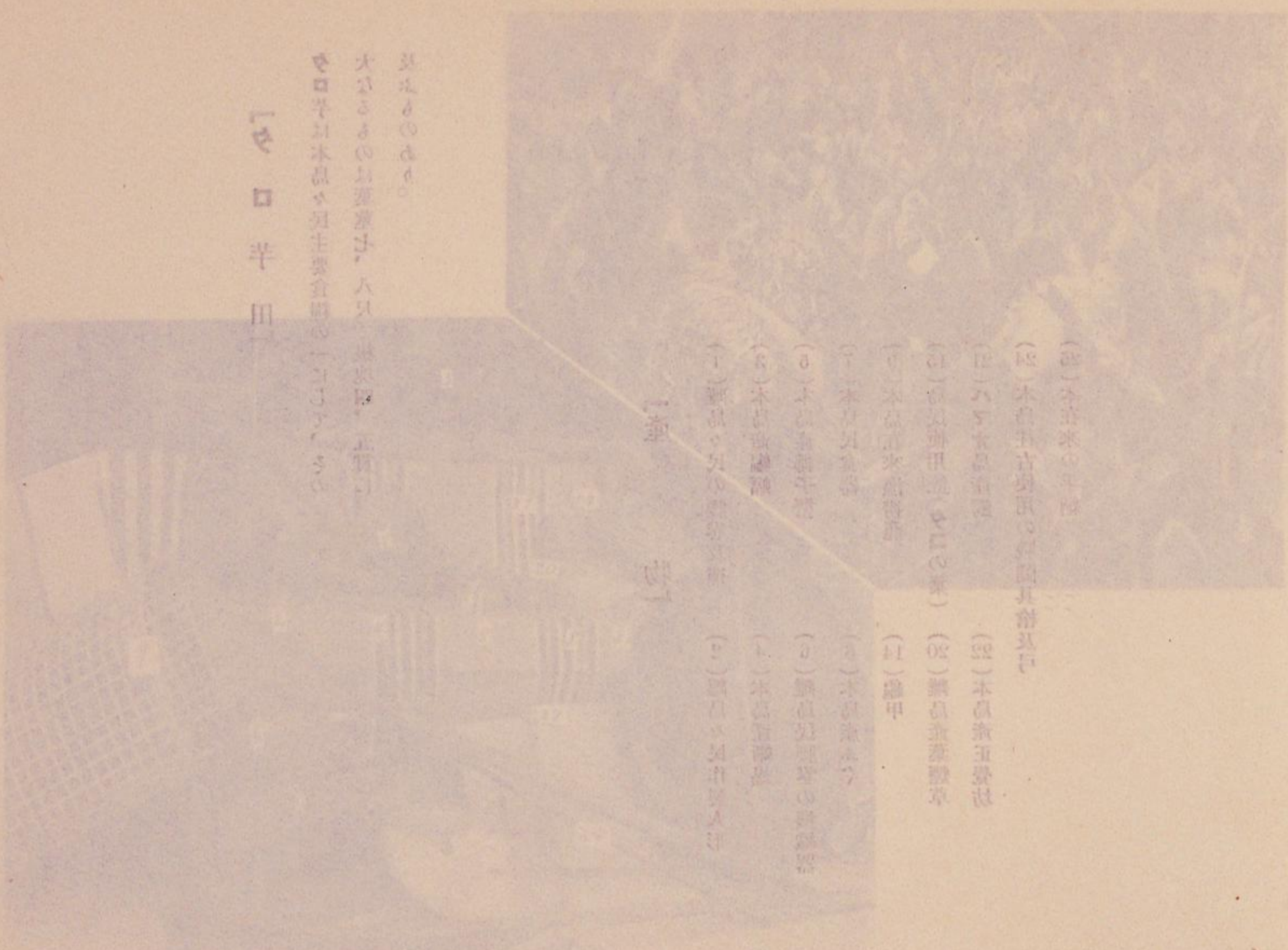
「コブラ製造状況」

本島の椰子果は一樹年産約二十乃至四十個にして、一噸のコブラを製するに大なるは三千個、小なるは六千個を要す。
本島は大正九年より數回に亘る大暴風襲來せる爲め、其生産額に減じ、未だ回復を見ず。因に、本島コブラ生産最高記録は、約八百噸とす。

「樹子椰るせ實結」



此は、
大正三年四月五日、八日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日、五月一日、五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日、六月一日、五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日、七月一日、五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日、八月一日、五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日、九月一日、五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日、十月一日、五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日、十一月一日、五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日、十二月一日、五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日、



(一) 本館
(二) 本館
(三) 本館
(四) 本館
(五) 本館
(六) 本館
(七) 本館
(八) 本館
(九) 本館
(十) 本館
(十一) 本館
(十二) 本館
(十三) 本館
(十四) 本館
(十五) 本館
(十六) 本館
(十七) 本館
(十八) 本館
(十九) 本館
(二十) 本館
(二十一) 本館
(二十二) 本館
(二十三) 本館
(二十四) 本館
(二十五) 本館
(二十六) 本館
(二十七) 本館
(二十八) 本館
(二十九) 本館
(三十) 本館
(三十一) 本館
(三十二) 本館
(三十三) 本館
(三十四) 本館
(三十五) 本館
(三十六) 本館
(三十七) 本館
(三十八) 本館
(三十九) 本館
(四十) 本館
(四十一) 本館
(四十二) 本館
(四十三) 本館
(四十四) 本館
(四十五) 本館
(四十六) 本館
(四十七) 本館
(四十八) 本館
(四十九) 本館
(五十) 本館

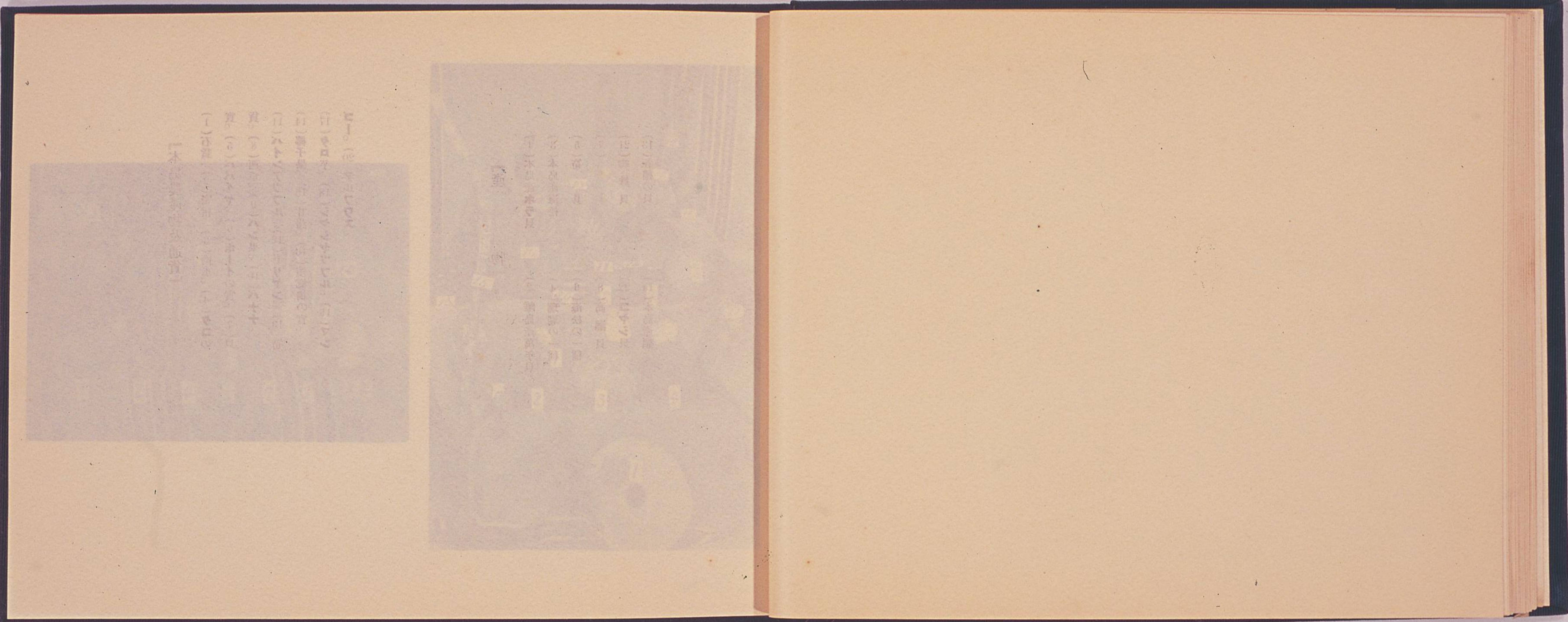
「タロ芋田」

タロ芋は本島々民主要食糧の一にして、その大なるものは葉茎七、八尺。根塊四、五貫に及ぶものあり。

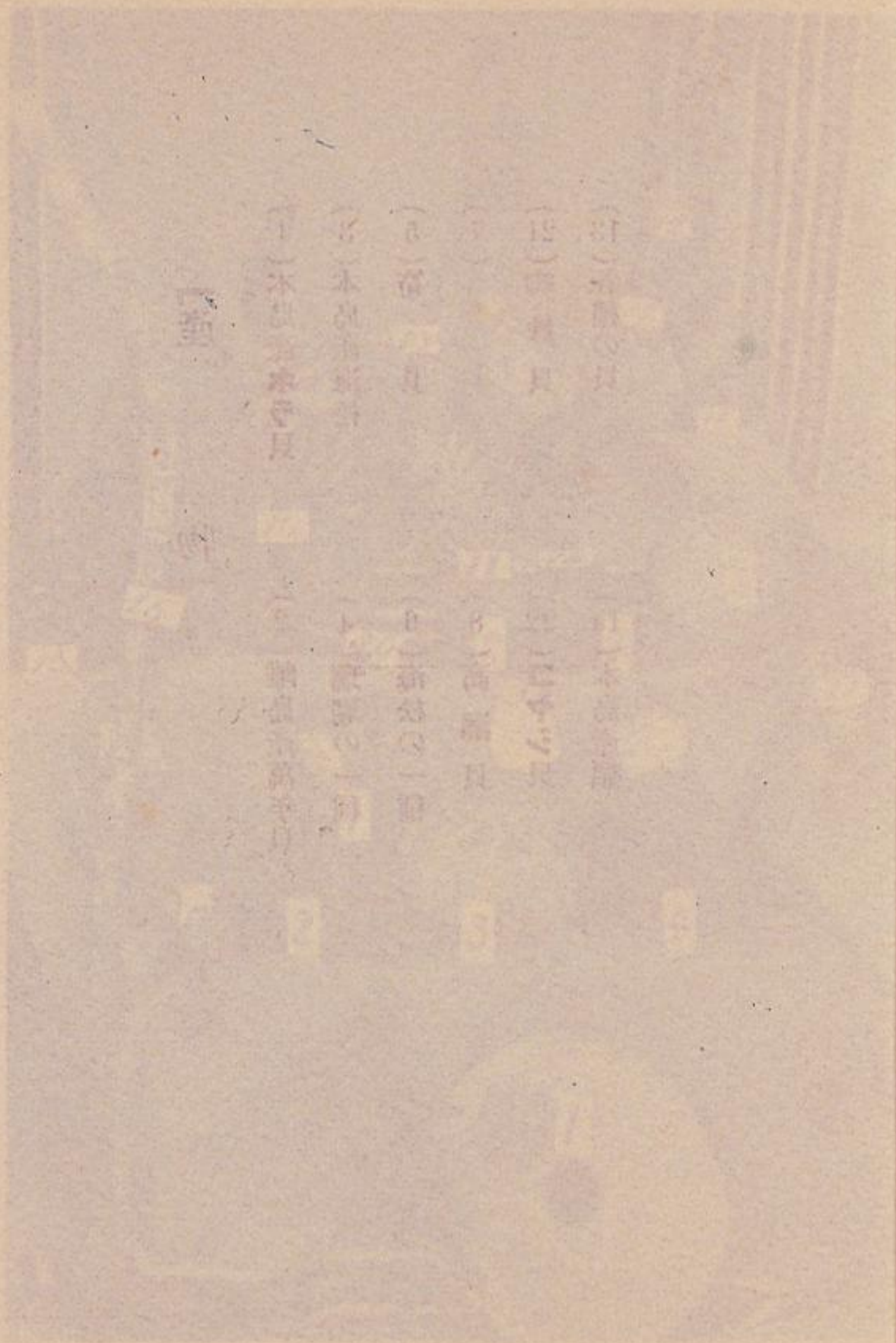
「産物」

- (1) 離島々民の腰巻及褲
- (2) 離島々民作製人形
- (3) 本島産蝙蝠
- (4) 本島産蜥蜴
- (5) 本島産椰子蟹
- (6) 離島民腰巻の機織器
- (7) 本島民食器
- (8) 本島産ふぐ
- (9) 本島在來漁撈籠
- (14) 龜甲
- (15) 島民使用笠(タコノ葉)
- (20) 離島産葉煙草
- (21) パマオ島産鱈
- (22) 本島産正覺坊
- (24) 本島往古使用の戦闘具槍及弓
- (25) 本在來の手網





Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mirrored and includes several lines of characters, possibly a list or index.

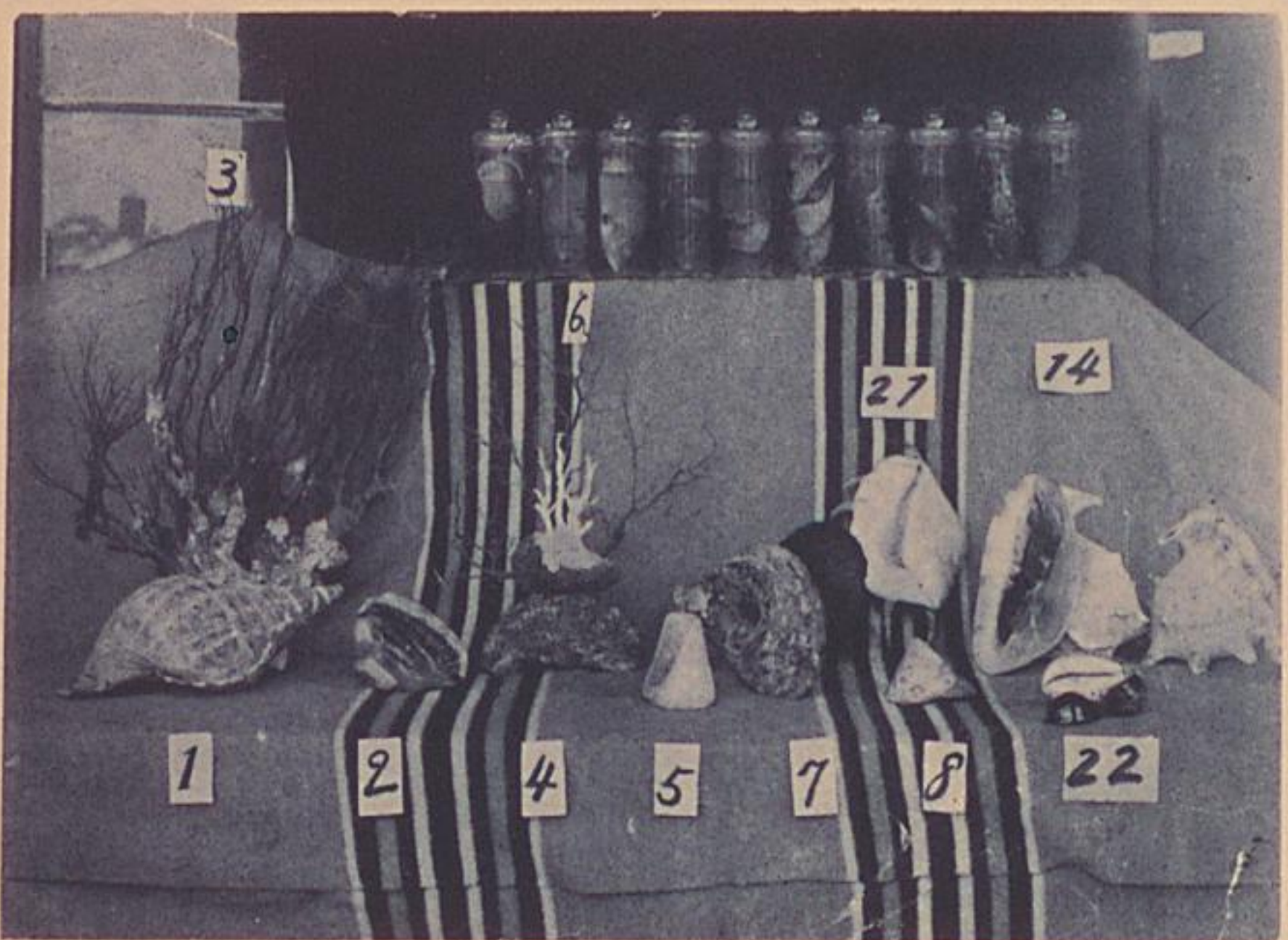


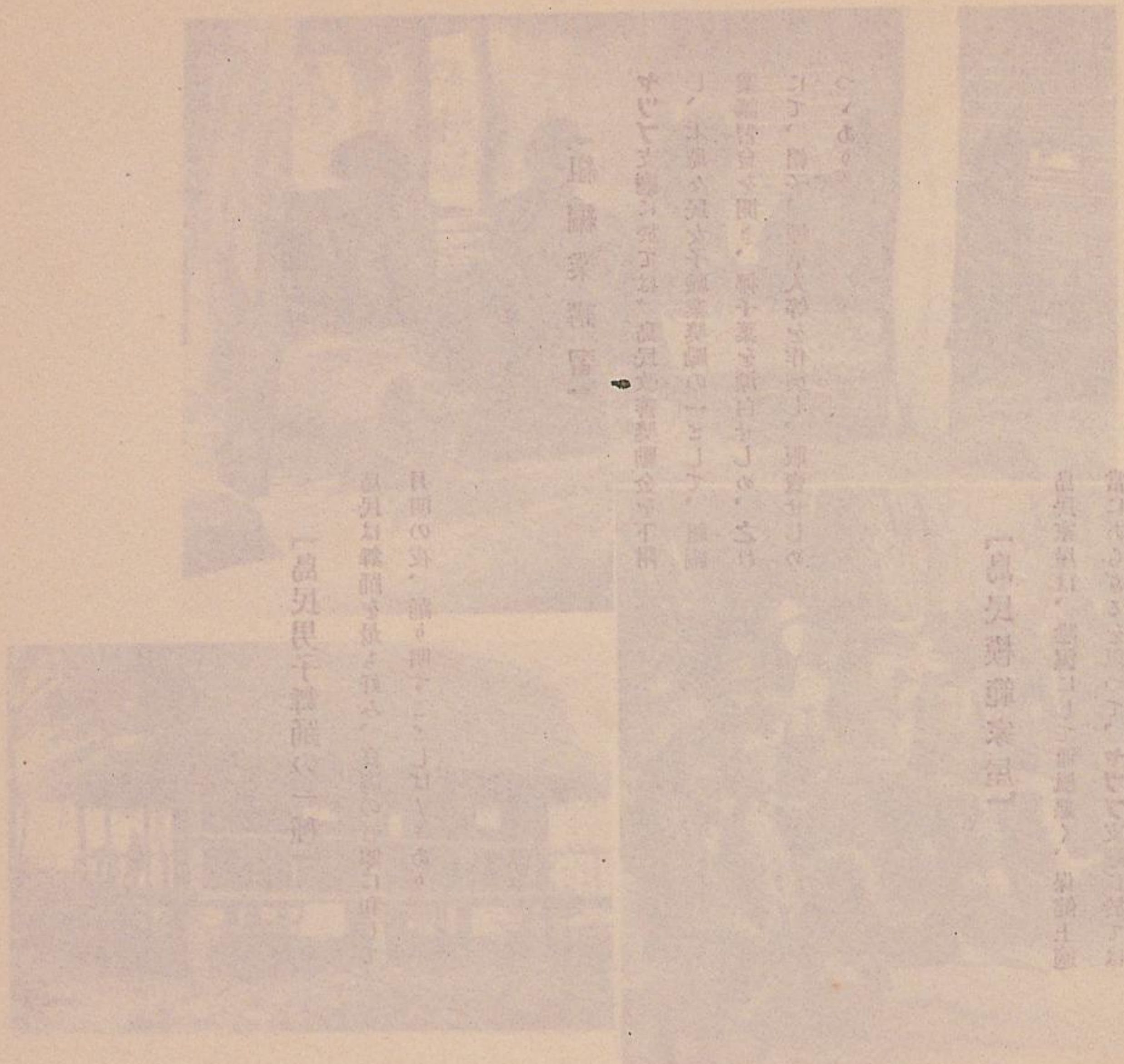
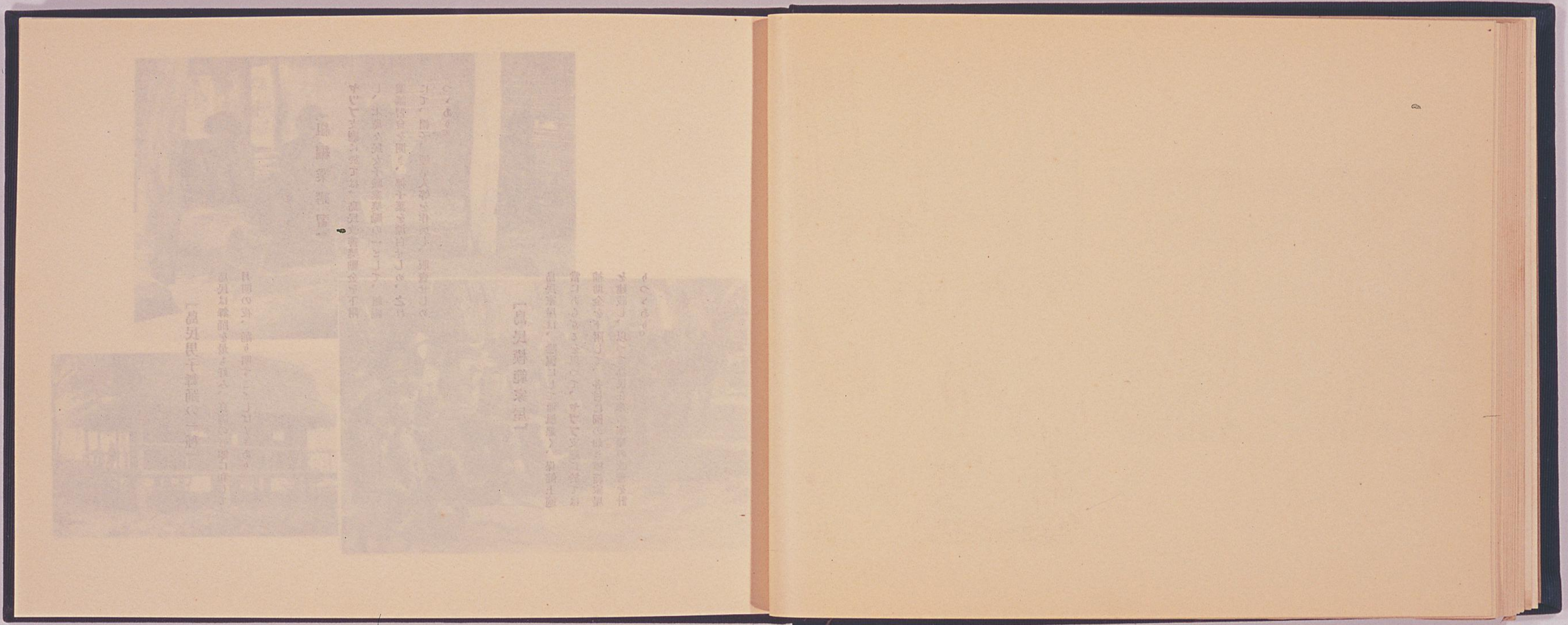
『本島農産物及通貨』

- (1) 石貨。(2) 密柑。(3) 南瓜。(4) タコの貨。(5) バイヤ。(6) ポーイの貨。(7) 貝貨。(8) 西瓜。(9) パン果。(10) パナナ。
- (11) バインアツプル。(12) ドリヤン。(13) 筍。(14) 椰子果。(15) 甘露。(16) 檳榔樹の實。
- (17) タロ芋。(18) シヤシャツプル。(19) マンゴ。
- (20) アルフラス。

『産物』

- (1) 本島産ホラ貝
- (2) 離島産萬年貝
- (3) 本島産海松
- (4) 珊瑚の一種
- (5) 筍 具
- (6) 海松の一種
- (7)
- (8) 高瀬貝
- (21) 蜘蛛貝
- (22) コヤシ貝
- (13) 各種の貝
- (14) 本島産類





「...」
「...」
「...」
「...」

「...」

「...」
「...」
「...」
「...」

「...」

「...」
「...」
「...」

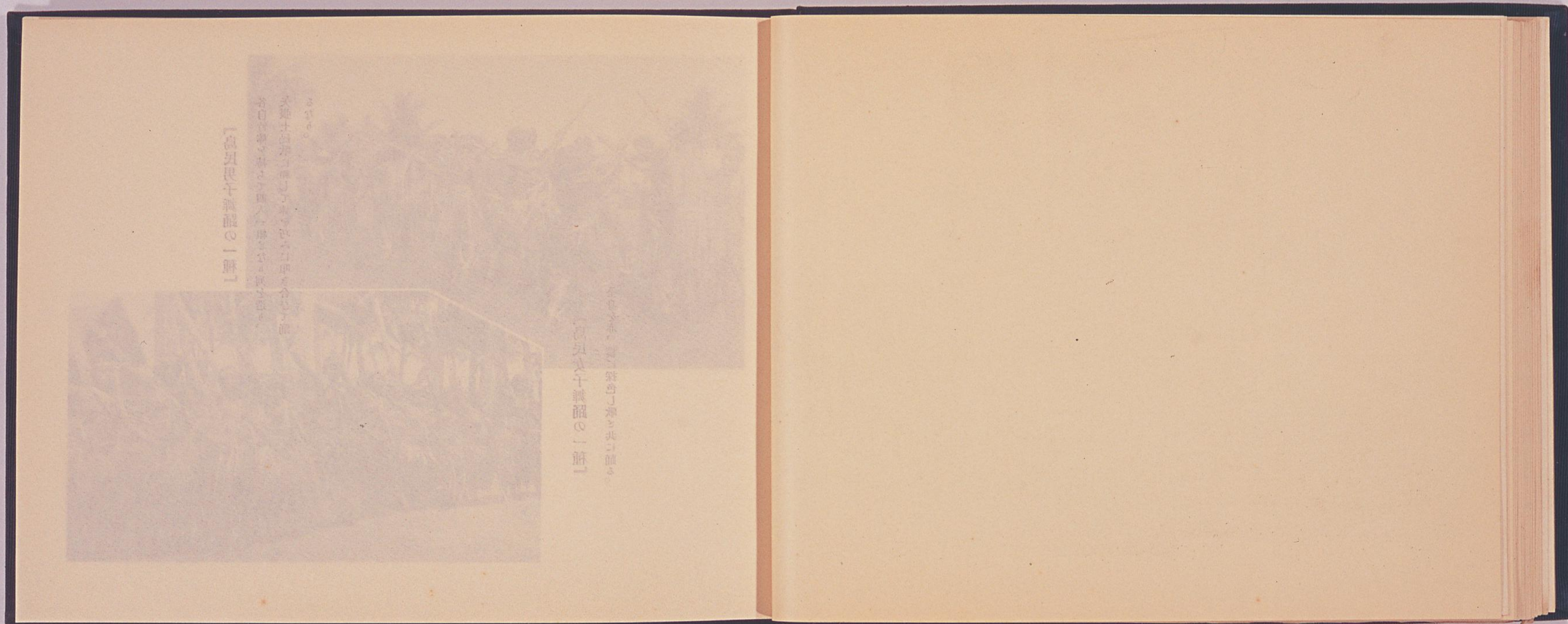


「島民男子舞踏の一種」
島民は舞踏を最も好み、哀調の音頭に和して月明の夜、踊り明すことしばしばあり。

「組編業講習」
ヤツプ支廳に於ては、島民改善獎勵金を下附し、本島々民女子職業獎勵の一として、組編業講習會を開き、椰子葉を漂白せしめ、之れにて、帽子、煙草入等を作製し、販賣せしめつゝあり。

「島民模範家屋」
島民家屋は、陰濕にして通風悪く、保健上適當にあらざるを以つて、ヤツプ支廳に於ては補助金を下附して、各村に圖の如き模範家屋を建設し、以つて島民在來の家屋の改善を計りつゝあり。





大正十一年の秋、東京府立第一高等学校の
創立十周年を記念して、本校に於て
創立十周年記念式典が挙られた。

大正十一年の秋、東京府立第一高等学校の
創立十周年記念式典の様子が、この
「創立十周年記念の一冊」

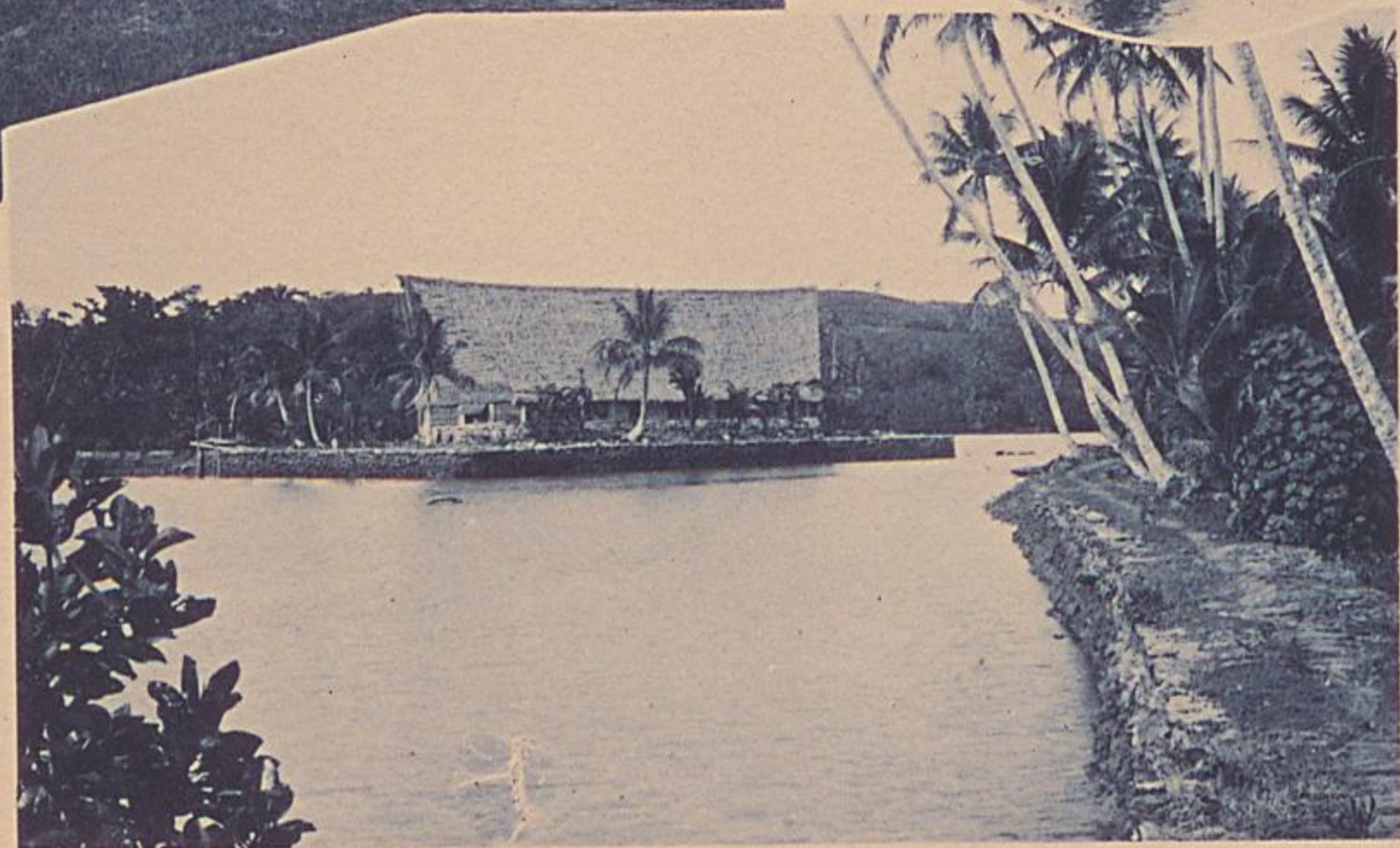


「島民男子舞踊の一種」

各自竹棒を持ちて四人一組となり列を造り、矢張り土民歌に和して棒を巧みに叩き合ひて踊るなり。

「島民女子舞踊の一種」

全身を赤、横に採色し歌と共に踊る。



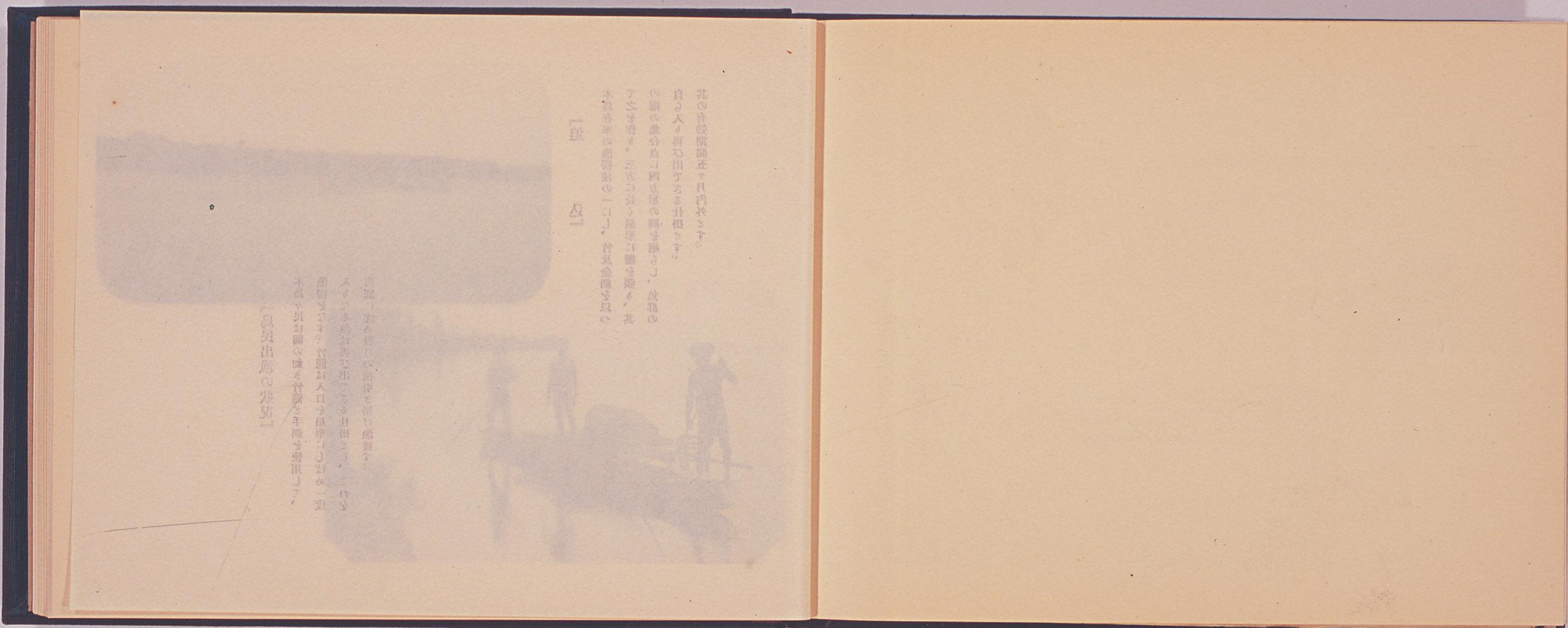
「タガレン水道」

本水道は獨領時代に交通上の利便をはかる爲めに開鑿されたものにして、それを作るに日々數百人の島民を便役し完成したりと云ふ尙本水道開鑿に従事せざりし島民の通行には總べて通行料を徴收したりと傳へらる。

「望遠所會集民島」

「ヤツブ支廳北阜頭より

トミル平原を臨む」



其の昔後開正、月内、
自ら入り、河内出する、并、
〇、〇、〇、〇、〇、
丁、〇、〇、〇、〇、〇、
本、〇、〇、〇、〇、〇、

一、二、三、

〇、〇、〇、〇、〇、
〇、〇、〇、〇、〇、
〇、〇、〇、〇、〇、
〇、〇、〇、〇、〇、
〇、〇、〇、〇、〇、

『島民出漁の状況』

本島々民は圖の如き竹籠と手網を使用して、漁撈をなす。竹籠は入口を扇形にしはめ一度入りたる魚は再び出でざる仕掛とし、これを海底に沈め数日の後引き揚げ漁獲す。

『追 込』

本島在來の漁撈法の一にし、竹及金網を以つて之を作り、三方に長く扇形に柵を張り、其の柵の集合点に四方形の柵を廻らし、魚群の自ら入り再び出でざる仕掛とす。其の有効期間五ヶ月内外とす。



「島民集會所」

島語「ガバイ」通常オウルメンハウスと稱し
内部の柱は全部玉名材を用ひ、大なるものは
其の周圍五尺以上に達するものあり。
又一本の釘をも使用せず全部椰子繩にて組立
つ。昔時一村の男子集りて他村と争闘せしも
のにして其の窓の構造など日本の城窓を思ふ
ものあり。
習慣として女子は絶対に出入を許さず、寫眞
は本島最大の集會所にして、竣工實に十ヶ年
の歳月を要したりと云ふ。

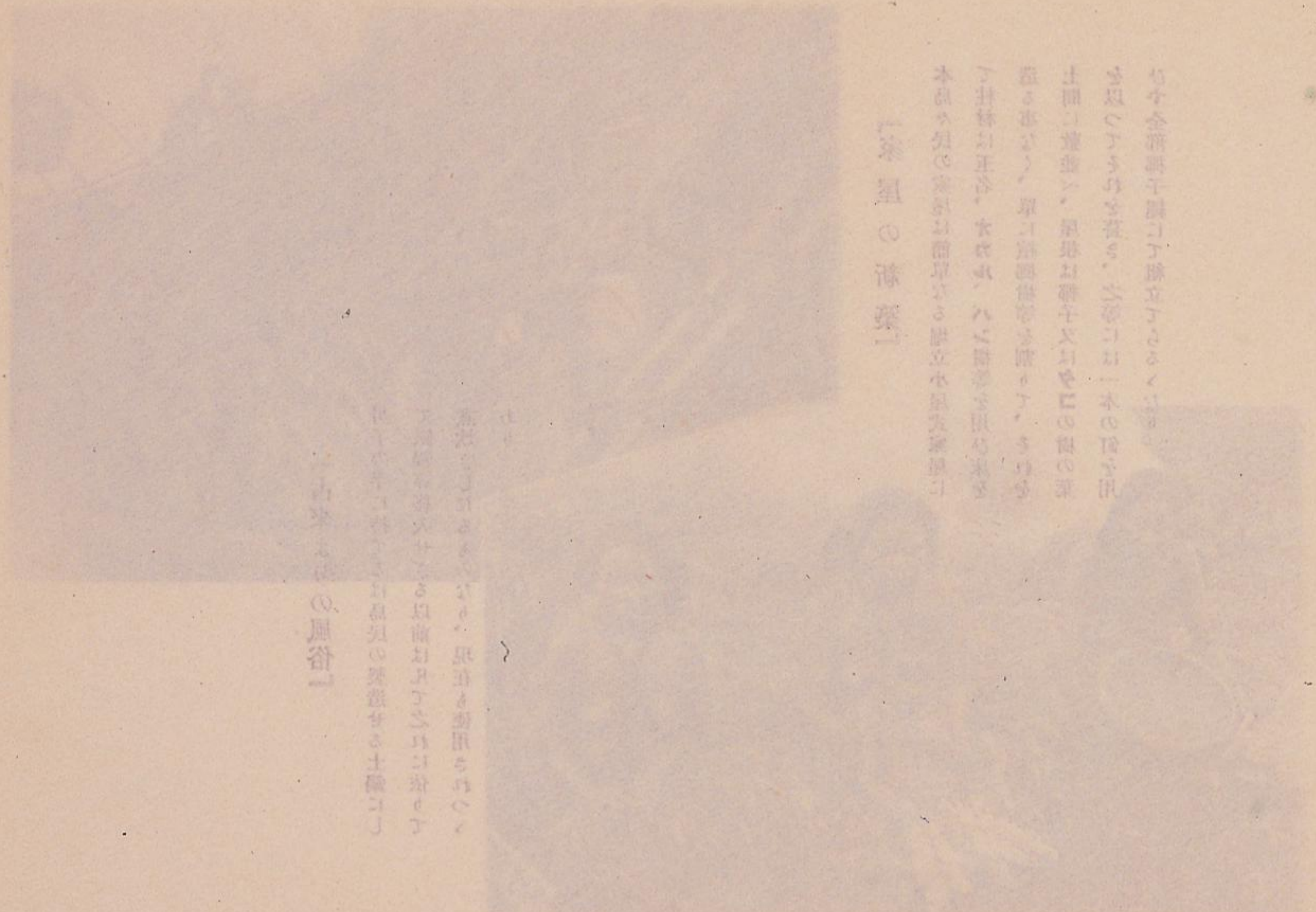
「島民家屋と島民」

屋根は椰子葉又はタコの樹葉にて葺き、間口
一、二間。奥行六、七間のもの多く、室内は
檳榔樹を割きて敷き並べ或は土間とす。
島民は斯くの如き軒低く窓狭く陰濕の家屋に
起居す。



544年(西暦)に建てられた、
元弘元年(1191)に、その地を
平家朝宗、平家朝基、平家朝俊の
三兄弟が、東山(現在の東山)に、
入道(院号)を建て、入道(院号)を
建て、その地を、
本願寺と名づけた。

【本願寺の歴史】



本願寺の歴史
本願寺の歴史
本願寺の歴史

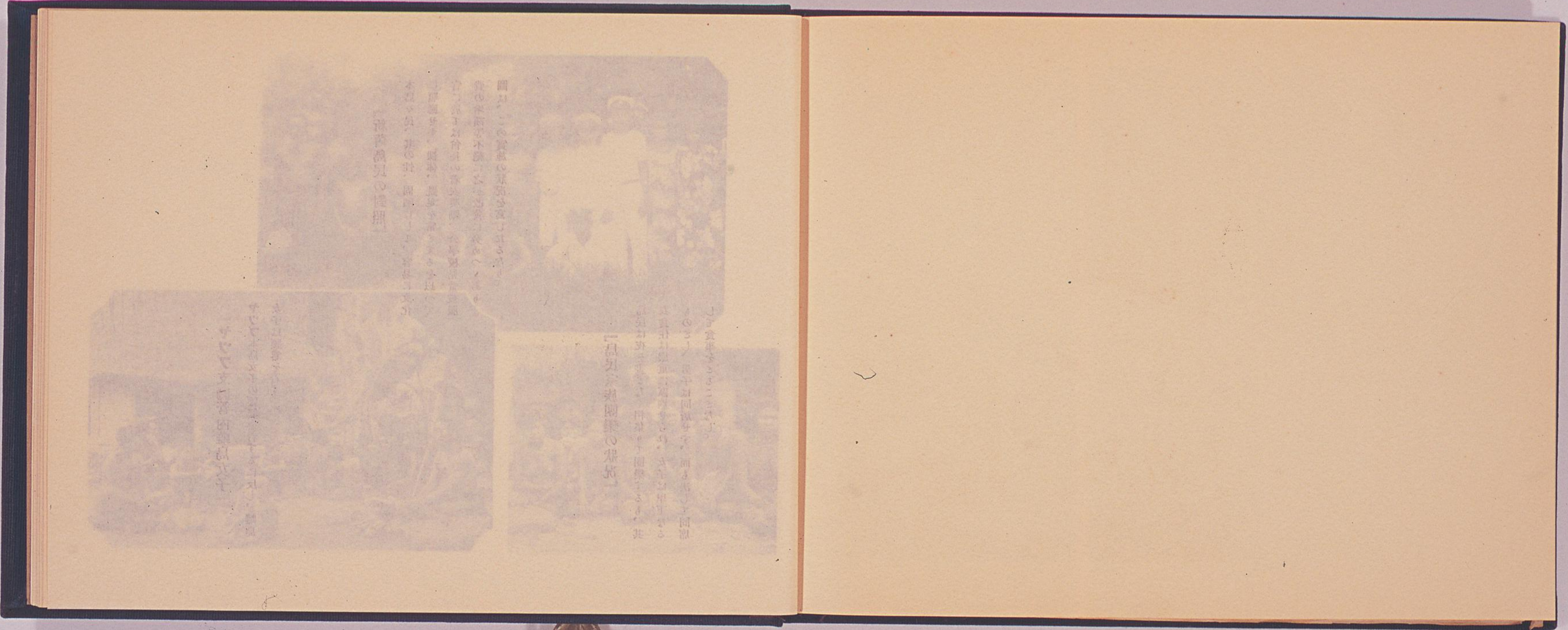


『家屋の新築』

本島々民の家屋は簡單なる塊立小屋式家屋にて柱材は玉名、オカル、パン樹等を用ひ床を造る事なく、單に檳榔樹等を割りて、それを土間に敷並べ、屋根は椰子又はタコの樹の葉を以つてそれを葺き、之等には一本の釘を用ひず全部椰子繩にて組立てらるゝなり。

『古來よりの風俗』

男子の手に持てるは島民の製造せる土鍋にして鐵鍋等移入せざる以前は凡て之れに依りて煮炊きたるものなり、現在も使用されつゝあり。



「昌列は...」
昌列の...
昌列の...

「昌列は...」
昌列の...

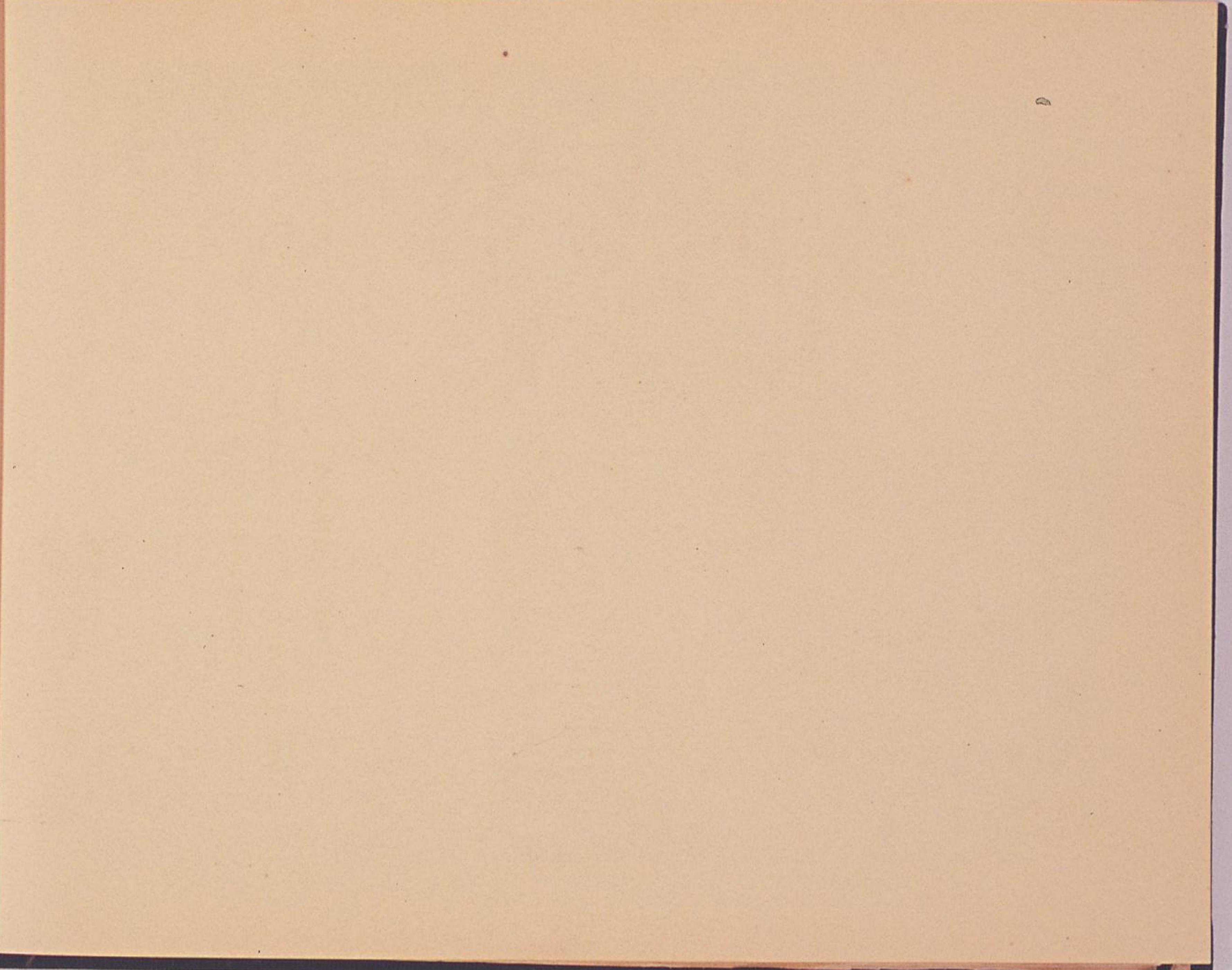
「ヤツブ支廳管内離島女子」
ヤツブ本島女子の腰笄を着するに反し、離島女子は腰巻を着す。

『新舊島民の対照』
本島々民、其の性、固陋にして、容易に文化に順應せず、裸体、跣足を常とするを以つて官に於ては會長の着衣獎勵、公學校児童被服費の増額等不絶に之が改善に努めつゝあり。圖は、この實施の狀況を寫したるなり。

『島民家族團樂の狀況』
島民は夜を晝となく相集りて團樂するも、其衣食住は嚴重に區別せられ、女子は卑下なるものとし、男子は同居せず、而も決して同席して食事をとることなし。



Fragment of a brown cord or tassel at the bottom edge of the book.



此の山は只野三郎平の墓と云ふ
 といふ傳説に三郎平の墓、大石の穴を削りて
 墓の土を削り其を平とす、其間お下りし
 本島代々其地を治る

「代々其地の墓」

代々其地の墓
 此の山は只野三郎平の墓と云ふといふ傳説に三郎平の墓、大石の穴を削りて墓の土を削り其を平とす、其間お下りし本島代々其地を治る

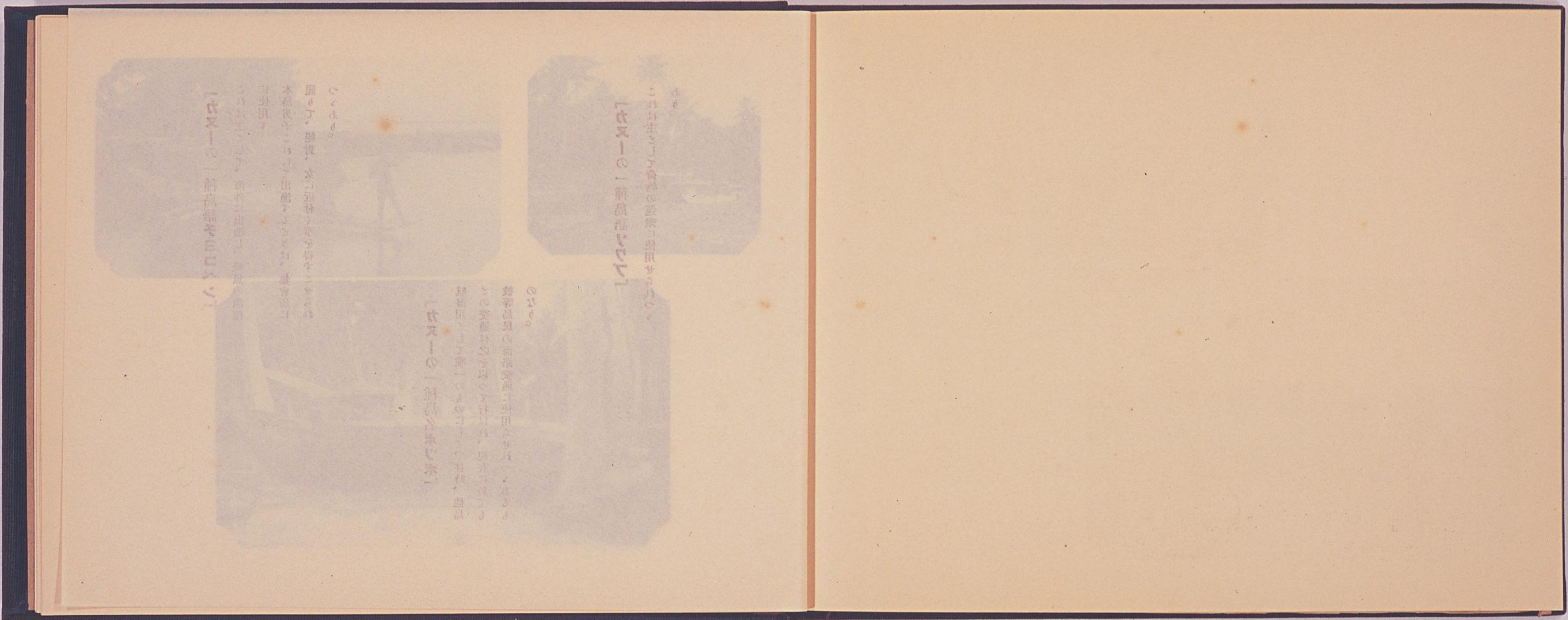
「カナカ族の墓」

本島カナカ族酋長の墓
墓は土を盛り長方形となし、周囲は石垣にし
て二段乃至三段となす、大きさの大なるもの
は巾九尺横二間半に及ぶものあり。

「チャモロ族の墓地」

本島チャモロ族は、總てカトリック教に歸依
し、墓地も凡てカトリック教會によりて監理
せられつゝあり。





「タヌー」の「新編」

「タヌー」の「新編」

「タヌー」の「新編」

「カヌーの一種島語チヨコベン」

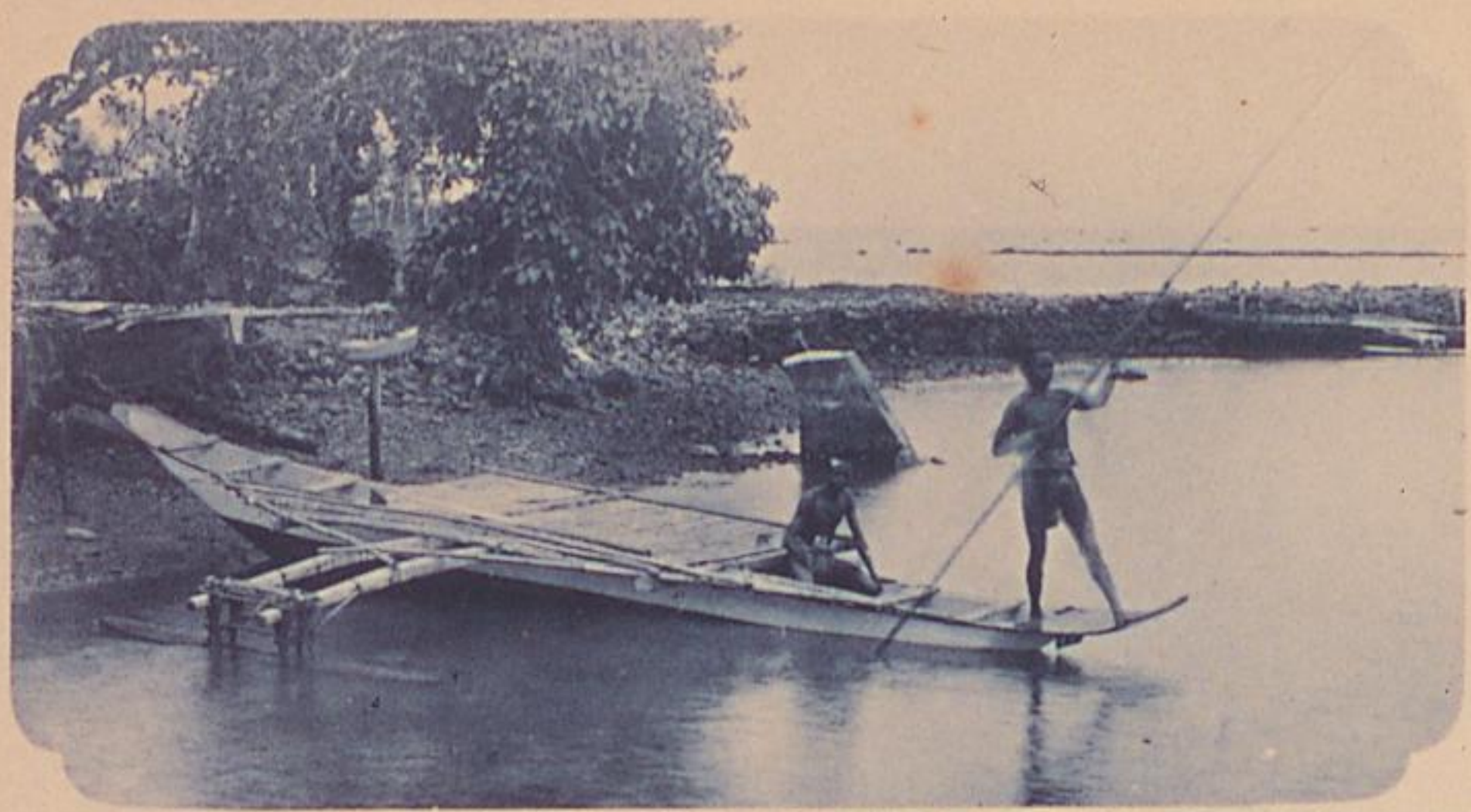
これは主として、海外に出漁し、飛魚の漁獲に使用する。
本島男子これにて出漁するときは、集會所に籠りて、絶對、女に近づく事を得させられつゝあり。

「カヌーの一種島名ボツボ」

航海用として唯一のものにして、往時、他島との交通は之を以って行はれ、現在に於ても彼等島民の海路交通に使用せられつゝあるものなり。

「カヌーの一種島語ソワフ」

これは主として荷物の運搬に使用せられつゝあり。



日本列島の内陸部には、
「ササゲ」文様柄の「一」

「山平録」
「山平録」





「ヤツブ支廳附屬農場の一部」
目下試作中の内地産粟栽培實況なり。

「山芋栽培状況」

本島の山芋は島民主要食物にして、その栽培は婦女子の仕事とせられ、芋の大なるものにあつては一個の重量五貫匁位のものあり。

不許
複製

定價金貳圓五拾錢也

南洋ヤツプ島コロニー

發行人 天野代三郎

大阪市南區長堀橋南詰東

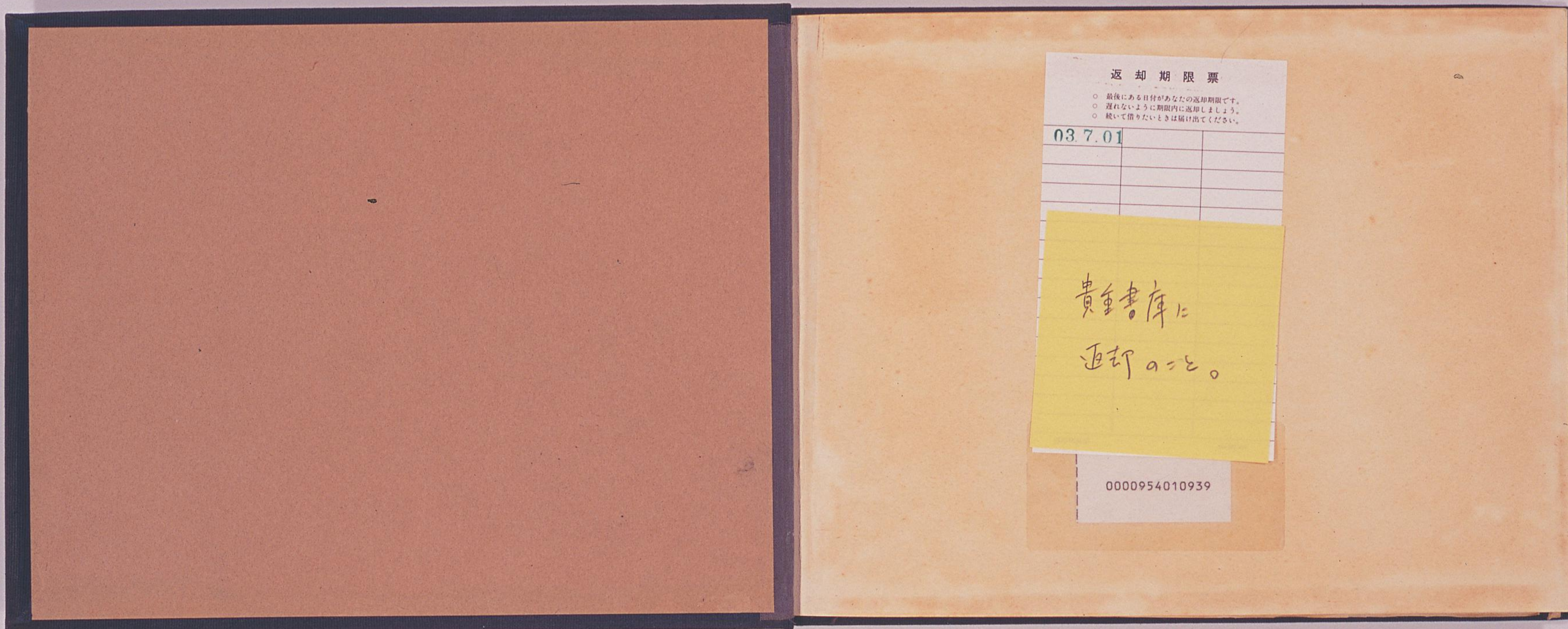
印刷所 飯田十字館

大阪市東區博勢町五十日

製本所 河原寫眞アルバル製造所

南洋ヤツプ島コロニー

發行所 天野代三郎商店



返却期限票

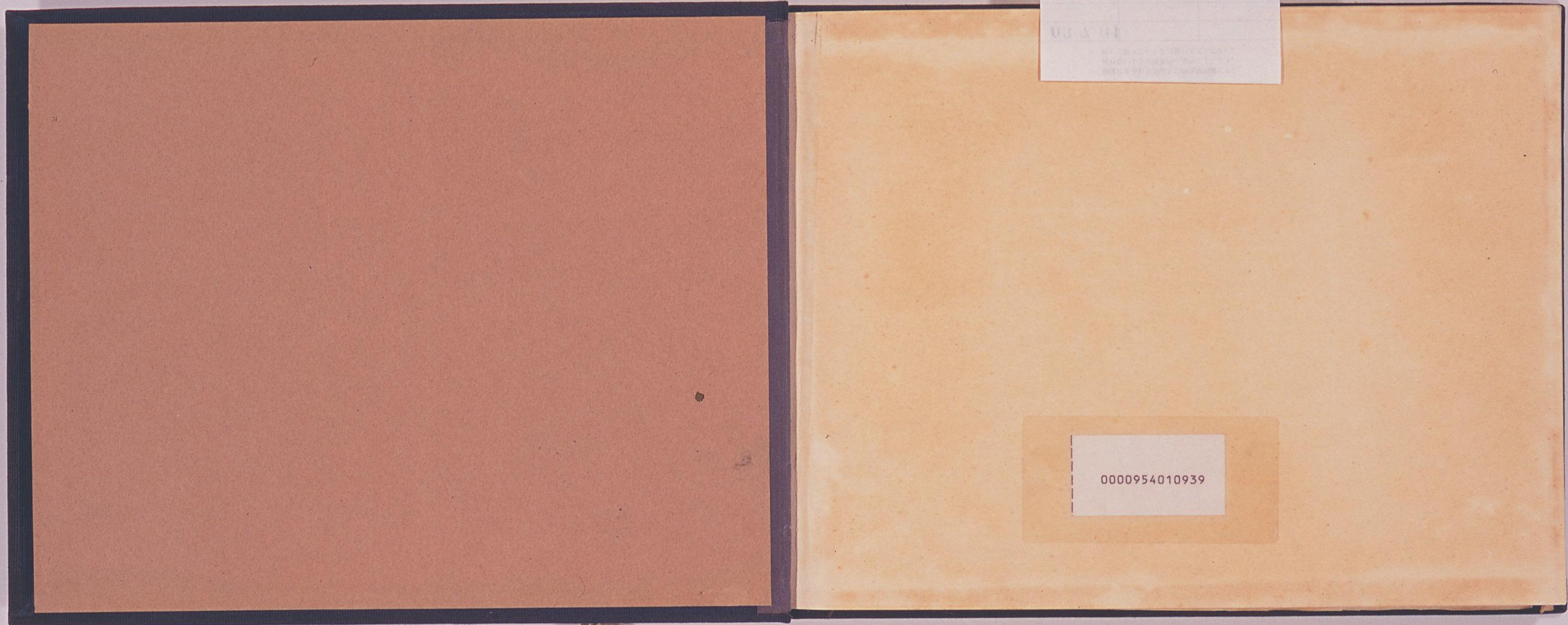
- 最後にある日付があなたの返却期限です。
- 遅れないように期限内に返却しましょう。
- 続いで借りたいときは届け出て下さい。

03.7.01

貴重書庫に
返却のとき。

0000954010939

挿入文書



0000954010939



274.3
AM
矢内原文庫